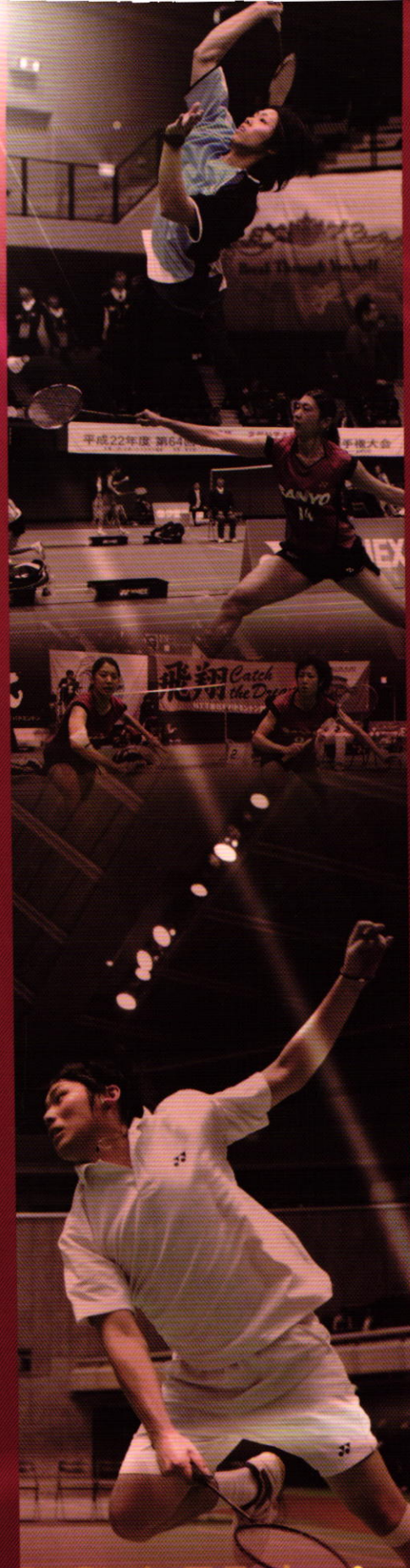


2011
OSAKA INTERNATIONAL CHALLENGE
BADMINTON CHAMPIONSHIPS

OSAKAインターナショナルチャレンジ
バドミントン選手権大会

OSAKA international challenge
BADMINTON
championships

おいしさ、そして、いのちへ。
Eat Well, Live Well.
AJINOMOTO®



カラダの中から
スポーツを愛する
全ての人を応援しています。

効率的なトレーニングや
試合でのベストパフォーマンスのために。
トップアスリートからスポーツ愛好家まで、
スポーツを愛する全ての人を
アミノ酸のチカラで
サポートするサプリメントです。

もっと、動ける、楽しめる。

amino VITAL® アミノバイタル®

スポーツ ニュートリション

「アミノバイタル」30本入箱

「アミノバイタル」プロ 14本入箱

(財)日本アンチ・ドーピング機構の
公式認定商品です



ごあいさつ MESSAGE: 02
大会展望 PREVIEW: 04
注目選手 CLOSE UP!: 06
地元選手紹介 FLY HIGH!: 10
歴代ベスト4 LIST OF WINNERS 2007-2010: 11
2010年大会レポート HIGHLIGHT 2010: 14
出場予定選手 LIST OF COMPETITORS: 20
オフィシャル OFFICIALS: 22

Osaka International Challenge BADMINTON Championships

2011 OSAKA INTERNATIONAL CHALLENGE BADMINTON CHAMPIONSHIPS

OSAKA インターナショナルチャレンジ バドミントン選手権大会

会場：守口市民体育館（京阪電車 守口市駅前）

〒570-0038 大阪府守口市河原町9-2
TEL06-6992-8201

賞金総額　US$15,000

優勝賞金	男子シングルス	US$1,200
	女子シングルス	US$1,035
	男子ダブルス	US$1,080
	女子ダブルス	US$915
	混合ダブルス	US$915

主　催　財団法人日本バドミントン協会（N.B.A）
公　認　世界バドミントン連盟（B.W.F.）
主　管　大阪府バドミントン協会
冠協賛　三洋電機株式会社
特別協賛　ヨネックス株式会社
後　援　大阪府・大阪府教育委員会
　　（財）大阪体育協会

4/6［水］ 予選　9：00開場 10：00試合開始

4/7［木］ 1･2回戦　9：00開場 10：00試合開始

4/8［金］ 2･3回戦　9：00開場 10：00試合開始

4/9［土］ 準決勝　10：00開場 11：00試合開始

4/10［日］ 決勝　10：00開場 11：00試合開始

http://www.badminton.or.jp/にて対戦カード・試合速報などをお知らせする予定です。

MESSAGE

ごあいさつ【OSAKAインターナショナルチャレンジ2011に寄せて】



財団法人日本バドミントン協会
綿貫　民輔
Tamisuke Watanuki
President,
Nippon Badminton Association(N.B.A)

昨年に引き続き、世界バドミントン連盟（BWF）公認の「大阪インターナショナルチャレンジ2011バドミントン選手権大会」が大阪府守口市で開催できますことは本会関係者として、喜びに堪えません。

本会はBWF公認のインターナショナルチャレンジとして2007から日本で開催され5年目となります。

日本では他にスーパーシリーズのヨネックスオープンジャパン、ジュニア対象のANAアジアユース、及びシニア対象のヨネックス杯国際レディース大会があり、国際試合として4大会の開催となります。

本会といたしましては来年のロンドンオリンピックでのメダル獲得に向けて、代表選手から若手の選手育成にいたるまで多くの選手に国際舞台の経験を積ませることにより世界の最高峰の技術を体感し、習得することを念願致します。

将来、世界を目指すジュニア選手及び観客のバドミントン愛好者には夢と希望と感動を与えることを期待しております。

選手の皆様には日頃の練習の成果を十二分に発揮され、試合に勝つことは勿論ですが、各国の参加選手・役員の皆様との友好を深められることを期待致します。

終わりに、本大会開催に当たり、多大なるご支援、ご尽力を賜りました、BWF、BAC、大阪府の関係各位、協力企業関係各位の皆様に感謝申し上げましてご挨拶と致します。

It is the greatest pleasure for us to hold the OSAKA INTERNATIONAL CHALLENGE 2011 in Moriguchi City following last year, as Badminton World Federation (BWF) sanctioned event.

It is the fifth year for this event, starting from 2007, as BWF sanctioned International Challenge event.

Other than this event, we hold 4 international events in Japan; such as Yonex Open Japan BWF Super Series, ANA Asia Youth for young junior players, and Yonex Cup International Ladies Championships.

We, Nippon Badminton Association, hope that players, who are experienced national team players, and young, developing players, experience more international matches and acquire higher skills through international events. And they will aim for London Olympic in 2012 and hopefully obtain medals.

They impress junior players who will play internationally in the future and badminton fans with the dream and hope.

I expect that the players win the match, demonstrate the full achievement of the daily trainings, and expand international friendship and relationship.

Finally, I would like to express my sincere appreciation for BWF, Badminton Asia Confederation (BAC), members of Osaka Badminton Association, and the supporting companies who have devoted themselves to make this tournament a success.

On behalf of the Council of Badminton Asia Confederation, I extend my warm greetings and best wishes to all players and officials participating in this year's Osaka International Challenge.

Welcome to this lovely city and to another magnificent hospitality extended by the President and members of the Osaka Badminton Association. My appreciative thanks to the management of Sanyo Electric whose fine gesture has made this annual Challenge yet again a success story.

The Moriguchi City Gymnasium may not see the likes of Lin Dan and Chong Wei but let me assure you that among the youngsters gathered here, we may yet see a champion of tomorrow. It is at these Level 4 International Challenges that young aspiring players are nurtured into Championships material. I am sure we will be looking at the likes of Wang Shixian, Tine Baun, Saina Nehwal, Ko Sung Hyun, Maeda Miyaki, Valerina Sorokina, among the contingent of participants at this year's Challenge.

We at the BAC are always delighted to provide assistance to ensure that more of our members involve themselves in the Challenge Series.

The US15,000 prize money may not be very tempting, but the experience and the fellowship you would have embraced in the next few days will leave a lasting memory. I wish you a productive Championship.

バドミントンアジア連盟理事を代表しまして、大阪インターナショナルチャレンジに参加される選手ならびに役員の皆さまを歓迎するとともに、皆さまのご成功をお祈り申し上げます。

大阪府バドミントン協会会長はじめ、会員の方々に厚くもてなしていただけるこの素敵な都市に皆さまを歓迎いたします。また、三洋電機の皆さまにはこの大会を毎年開催していただけることにとても感謝しております。

守口市民体育館では林丹やリー・チョンウェイのような選手を観ることはないと思います。ですが、ここに集う若い選手のなかから将来のチャンピオンが誕生するかもしれません。この大会はレベル4のインターナショナルチャレンジですが、向上心に燃える若い選手たちを育成する場でもあります。出場者のなかから王適嫻、ティネ・バウン、サイナ・ネワール、コー・スンヒュン、前田美順、ヴァレリナ・ソロキナのように世界で活躍する選手が出てくることは間違いないでしょう。

バドミントンアジア連盟はインターナショナルチャレンジのレベルの大会に多くの選手が出場するよう協力を惜しみません。

賞金総額15,000USドルの大会は決して魅力的な金額とは言えませんが、ここで経験したことやここで芽生えた友情は将来を通じて消えない記憶となるはずです。

最後になりましたが、今大会が実り多きものとなりますようお祈り申し上げます。



バドミントンアジア連盟会長
スティヨソ
Dr Sutiyoso
President,
Badminton Asia Confederation(B.A.C)



大阪府バドミントン協会　会長

三宅 祐司

Yuji Miyake

President,
Osaka Badminton Association

桜花爛漫と咲き乱れるベストシーズンに世界各国から強豪選手を多数お迎えし、「大阪インターナショナルチャレンジ2011」を、大阪府守口市民体育館において開催できますことは、誠に喜ばしいことであり、皆様のご来日を心より歓迎いたします。

この大会は昨年に続き5回目の開催となり、国内では9月に開催される「ヨネックスオープンジャパン」とともに、世界ランキングポイントを獲得できる大会となっています。

来年に開催されるロンドンオリンピックに向けて、今年からマッチレースが展開され、熾烈な戦いが繰り広げられることを期待いたします。

この大会は世界のランキングポイントの獲得を目指し、最高の技術を競い、多くのバドミントン愛好者に夢と感動を与えてくれるものと確信しております。

この大会を通じて役員・選手の皆様が、国際親善と交流の輪を広げることを大いに期待し、選手の皆様には日頃の成果を十分に発揮され、熱戦を展開されることを期待しております。

本大会開催に多大なるご支援、ご尽力いただいた関係各位の皆様に感謝申し上げ歓迎の言葉といたします。

It is my great pleasure to welcome the top players from around the world to "the Osaka International Challenge 2011" at Moriguchi Civic Gymnasium in this good season of cherry blossoms in full bloom.

This is the fifth International match following last year in Osaka. The players who participate in this Championship can earn BWF World Ranking points as well as "Yonex Japan Open" held in September in Japan.

The race to get the points will be held this year in preparation for London Olympics next year. I expect the fierce competition has been unfolded among players as for this Olympics race.

I believe that all the players here will give full play to their abilities and compete for the points. And that will give a great deal of dreams and excitement to us and all the badminton lovers.

I hope that the players and staffs will expand the international amity and circle of friendship through this event, and all the players will demonstrate enough their achievements of daily trainings and show us exciting games.

I would like to express my sincere appreciation to all the people involved for their efforts to open this Championship as a welcome tribute.

It is a great pleasure to express my cordial congratulations to all of you on the Osaka International Challenge 2011. On behalf of all the people of Osaka Prefecture, I would like to express warm welcome to those participating from all over Japan and the world.

Here in Osaka, powerful and exciting matches will be staged in this international competition, which shall bring about dreams and excitement to many prefectural residents as well as promoting badminton.

I hope that all the athletes will do their best as the result of their rigorous training. It is my hope that many athletes from this competition will exhibit their wonderful skills at the London Olympics to be held only one year away. I also hope that participants will develop warm friendships that transcend national boundaries.

Inspired by the athletes' enthusiasm for badminton, I am committed to aim for the realization of lifelong-sports-society where everyone, young and old, can casually enjoy sports for a long and happy life.

In closing, I would like to express sincere respect for the great efforts made by the executive committee and others concerned, and my best wishes for the great success of the competition. Congratulations and all the best.

「第5回大阪インターナショナルチャレンジ2011」が盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。海外並びに全国各地から参加されます選手の皆様、ようこそ大阪にお越しくださいました。大阪府民を代表して心から歓迎いたします。

ここ大阪の地で、国際大会として迫力に満ちた熱戦が展開されることは、バドミントン競技の普及・振興のみならず、多くの府民に夢と感動をもたらしてくれるものと考えております。

出場される選手の皆様には、日頃の練習の成果を存分に発揮され、多くの選手が来年に迫ったロンドンオリンピックの舞台で活躍されることを期待しています。また、国・地域を超えて多くの選手と交流を深められることを願っています。

私も、バドミントンに懸ける皆様の情熱に負けないよう、誰もが気軽にスポーツを楽しめる生涯スポーツ社会の実現を目指し、笑顔が輝く大阪となるように、全力で取り組んでまいります。

結びに、本大会の開催にご尽力された関係の皆様に対し深く敬意を表しますとともに、本大会のますますのご発展と、皆様のご活躍を心から祈念して、お祝いの言葉といたします。



大阪府知事

橋下 徹

Toru Hashimoto

Governor,
Osaka Prefecture



PREVIEW

大阪インターナショナルチャレンジ2011 大会展望

第5回目を迎える「大阪インターナショナルチャレンジ2011」。

今年の5月からロンドンオリンピックへの出場権獲得に向けたレースがスタートすることもあって、ナショナルチームの多くが同日程で開催される「オーストラリアオープン」へのエントリーとなった。したがって、今大会の日本人選手はナショナルバックアップチームなど若手中心だ。

2007年に第1回大会を開催するにあたり、日本協会が「若い選手たちが国際大会を積む経験の場にしたい」と言っていた。今大会はこの言葉通り2016年のリオデジャネイロに向け、これから世界に旅立つ若い選手たちの熱い奮闘の場となるだろう。

海外からのエントリーは、東北関東大震災の影響もありキャンセルが相次いだが、世界のトッププレーを間近で体感することの少ない西日本のバドミントンファンにとっては、この貴重な機会を堪能していただきたい。

では、各種目の注目選手にスポットを当てて紹介しよう。

まずは男子シングルス。

昨年トナミ運輸に移籍して全日本総合で3位入賞を果たし、ナショナルチーム入りした園田啓悟(トナミ運輸)と、同じくナショナルチーム入りした全日本社会人3位の坂井一将は、共に攻撃型のプレーヤーで激突が予想される。高校2年生で唯一ナショナルバックアップメンバーの桃田賢斗(富岡高校)も注目選手の一人だ。

女子シングルスは、高卒新人で全日本総合3位の三谷美菜津(NTT東日本)がナショナルチームの意地を見せ、一気に頂点に立つか。一方、2008年にこの大会で準優勝し、その三谷選手に総合で苦杯をなめた関谷真由(三洋電機)は、リベンジして復活をアピールしたいところだ。若手ではラリー力に定評のある奥原希望(大宮東高校)のショットが見所だ。

男子ダブルスは戦国時代の様相を呈するが、ナショナルバックアップチームに入った銭谷(トナミ運輸)／嘉村(早稲田大学)組、星野／小林組(日本体育大学)を軸に展開されるか。全日本総合ベスト8の大島／三橋組(日立情報エンジニアリング)も上位をうかがう。

女子ダブルスは全日本総合3位で、若手成長株の三木／米元組(三洋電機)に期待だ。総合で松尾／内藤組を打ち破った攻撃力で、オーストリア国際優勝に続き、地元大阪での頂点をつかみたいという気持ちは強いはずだ。一方、世界ランキングで上位をキープし続ける脇田/江藤組(岐阜トリッキーパンダース)は経験値が高く、若手の壁になって立ち塞がるか。

混合ダブルスは固定されたペアが少なく、どのペアが優勝しても不思議でないほど混戦となるだろう。外国人ペアのエントリーが無いのは残念だが、ナショナルバックアップチームを中心とした若手ペアにとっては存在をアピールするチャンスだ。

BWF世界ランキング (3月24日現在)

■男子シングルス

1	Chong Wei LEE	マレーシア
2	Dan LIN	中国
3	Taufik HIDAYAT	インドネシア
4	Long CHEN	中国
5	Peter Hoeg GADE	デンマーク
6	Boonsak PONSANA	タイ
7	Tien Minh NGUYEN	ベトナム
8	Jin CHEN	中国
9	Simon SANTOSO	インドネシア
10	Jan O Jorgensen	デンマーク
16	田児賢一	NTT東日本
25	山田和司	日本ユニシス
26	佐々木 翔	トナミ運輸
68	上田拓馬	早稲田大学
88	早崎修平	日立情報通信エンジニアリング

■女子シングルス

1	Shixian WANG	中国
2	Yihan Wang	中国
3	Saina NEHWAL	インド
4	Xin Wang	中国
5	Tine BAUN	デンマーク
6	Xin(1) LIU	中国
7	Juliane Schenk	ドイツ
8	Jiang Yanjiao	中国
9	Xuerui LI	中国
10	Youn Joo BAE	韓国
13	廣瀬栄理子	三洋電機
23	後藤 愛	NTT東日本
25	佐藤冴香	日本体育大学
28	栗原文音	日本ユニシス
45	打田しづか	日本ユニシス
61	今別府香里	三洋電機
62	平山 優	日本ユニシス
89	関谷真由	三洋電機

■男子ダブルス

1	Mathias BOE Carsten MOGENSEN	デンマーク
2	Jae Sung JUNG Yong Dae LEE	韓国
3	Kien Keat KOO Boon Heong	マレーシア
4	Yun CAI Haifeng FU	中国
5	Sung Hyun KO Yeon Seong YOO	韓国
6	Hendra SETIAWAN Markis KIDO	インドネシア
7	Chieh Min FANG Sheng Mu LEE	台北
8	Muhammad AHSAN Bona SEPTANO	インドネシア
9	Alvent Yulianto CHANDRA Hendra Aprida GUNAWAN	インドネシア
10	橋本博且 平田典靖	トナミ運輸
17	川前直樹 佐藤翔治	NTT東日本
20	早川賢一 遠藤大由	日本ユニシス
25	廣部好輝 数野健太	日本ユニシス

■女子ダブルス

1	Wen Hsing CHENG Yu Chin CHIEN	台北
2	Xiaoli WANG Yang (F) YU	中国
3	前田美順 末綱聡子	ルネサスSKY
4	藤井瑞希 垣岩令佳	ルネサスSKY
5	Duang Anong AROONKESORN Kunchala VORAVICHITCHAIKUL	タイ
6	Petya NEDELCHEVA Anastasia RUSSKIKH	ブルガリア ロシア
7	Valeria Sorokina Nina Vislova	ロシア
8	Greysia POLII Meiliana JAUHARI	インドネシア
9	Shinta Mulia SARI Lei YAO	シンガポール
10	松尾静香 内藤真実	三洋電機
18	高橋礼華 松友美佐紀	日本ユニシス
21	脇田 侑 江藤理恵	岐阜トリッキーパンダース
61	打田しづか 栗原文音	日本ユニシス
62	三木佑里子 米元小春	三洋電機

■混合ダブルス

1	Nan ZHANG Yunlei Zhao	中国
2	Sudket PRAPAKAMOL Saralee THOUNGTHONGKAM	タイ
3	Joachim Fischer NIELSEN Christinna PEDERSEN	デンマーク
4	Robert MATEUSIAK Nadiezda ZIEBA	ポーランド
5	Sung Hyun KO Jung Eun HA	韓国
6	Thomas LAYBOURN Kamilla RYTTER JUHL	デンマーク
7	Hendra Aprida GUNAWAN Vita MARISSA	インドネシア
8	Tao JIAMING Qing TIAN	中国
9	Michael Fuchs Birgit MICHELS	ドイツ
10	Nathan ROBERTSON Jenny WALLWORK	イングランド
20	池田信太郎 潮田玲子	日本ユニシス
38	橋本博且 藤井瑞希	トナミ運輸 ルネサスSKY
40	早川賢一 松尾静香	日本ユニシス 三洋電機
65	平田典靖 前田美順	トナミ運輸 ルネサスSKY
75	数野健太 垣岩令佳	日本ユニシス ルネサスSKY

先進の3PL（サードパーティ・ロジスティクス）を提案します。

TONAMI
Logistics
SOLUTION
トナミ ロジスティクス ソリューション

あらゆる物流ニーズに応えるチカラ
それが、トナミ ロジスティクス ソリューション

- コンサルティング機能 CONSULTING
- 情報システム機能 INFORMATION SYSTEM
- 業務運営機能 BUSINESS MANAGEMENT
- 物流ネットワーク機能 DISTRIBUTION NETWORK

TONAMI

PANTHER

トナミ運輸株式会社

http://www.tonami.co.jp



パワーアップした三木選手と、ネット前でのプレーに自信を持つ米元選手の若手ペアが、その攻撃力で前年度チャンピオンの松尾／内藤組を打ち破った総合の試合は記憶に新しい。今はナショナルバックアップチームだが、オーストリア国際に続き、地元大阪で頂点に登り詰め、さらに上を目指したいところだ。

MIKI Yuriko & Yonemoto Koharu

三木佑里子&米元小春

【みき・ゆりこ】(写真右)
89年10月1日生(21歳)166cm、58kg
右利き/三洋電機/埼玉県出身
富士中～越谷南高

'06　全日本ジュニア 単複2位
'07　インターハイ 単3位
　　オーストラリア国際 単複3位
'08　大阪国際 複8強
　　全日本社会人 複8強
'09　日本ランキング大会 複8強
　　全日本社会人 複3位
'10　ロシアOP 複2位
　　全日本総合 複3位
'11　オーストリア国際 複優勝

【よねもと・こはる】
90年12月7日生(19歳)167cm、57kg
右利き/三洋電機/広島県出身
翠町中～青森山田高

'07、'08　インターハイ 複3位
'08　高校選抜 複2位
　　タイサテライト 複2位
　　ワイカト、ノースショア国際 複優勝
'09　日本ランキング大会 8強
　　全日本社会人 複3位
'10　ロシアOP 複2位
　　全日本総合 複3位
'11　オーストリア国際 複優勝

注目選手 CLOSE UP Women's Doubles

ベテランの域に入った脇田選手が、社会人2年目の江藤選手のスマッシュを引き出す。海外でも成績を残し、世界ランキング20位前後をキープし続けるそのプレー見物だ。

WAKITA YU & ETHOU Rie

脇田 侑&江藤理恵

【わきた・ゆう】(写真左)
84年11月4日生(25歳)163cm
右利き/岐阜トリッキーパンダース/岐阜県出身
川島中～県岐阜商高～筑波大

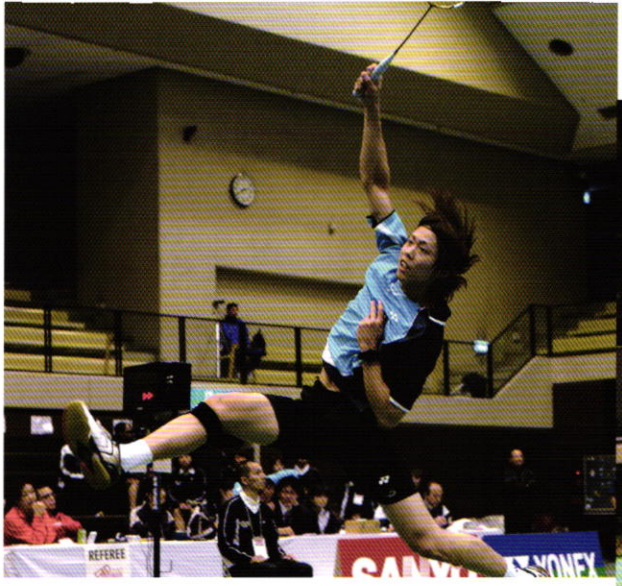
'02　インターハイ 複優勝
'05　インカレ 単2位
'06　世界学生 複2位
'07　全日本社会人 単複3位
'08　オランダOP 単2位
'10　US OP 複2位

【えとう・りえ】
88年2月26日生(23歳)162cm
右利き/岐阜トリッキーパンダース/大分県出身
三隅中～熊本信愛女学院高～東海学院大

'08　インカレ 単3位
'09　インカレ 単2位
'10　US OP 複2位



注目選手 CLOSE UP





得意なショットはドライブで、スピーディーな展開が持ち味。インカレを2度制し、今年はナショナルバックアップチームに選ばれた。今大会はパートナーを代え国際大会初優勝に挑む。昨年8強の米元選手とのMIXにも期待がかかる。

KAMURA Takeshi

嘉村健士

【かむら・たけし】
90年2月14日生（21歳）170cm、63kg
右利き/早稲田大学/佐賀県出身
八代東高～早稲田大学

'06　高校選抜 複2位
'07　インターハイ 単・複3位
　　世界ジュニア 複3位
'08　インカレ 複優勝
'09　インカレ 複3位
'10　大阪国際 複8強・混合8強
　　日本ランキングサーキット 複2位
　　インカレ 複優勝
　　全日本総合 複8強

地元大阪の大東ジュニア出身で、父親ゆずりの長身から繰り出す角度あるスマッシュが武器。社会人となった今年はナショナルバックアップチーム入りし、国際大会での活躍が期待される。シングルスにも注目。

ZENIYA Sho

銭谷 翔

【ぜにや・しょう】
88年8月19日生（22歳）180cm、70kg
右利き/トナミ運輸/大阪府出身
大東ジュニア～四條畷学園中～
東大阪大柏原高～中央大学

'06　インターハイ 単・複8強
'09　インカレ 単8強
'10　インカレ 単3位・複8強

注目選手
CLOSE UP
Men's Doubles

体格に恵まれているわけでもなく、決定的な威力のあるショットがあるわけでもないが、早いタッチのドライブを武器に1年生ながらインカレ決勝に進んだペア。そのスピードで国際大会初優勝を狙う。

HOSHINO Syohei & KOBAYASHI Akira

星野翔平&小林 晃

【ほしの・しょうへい】（写真右）
92年1月1日生（19歳）167cm、64kg
右利き/日本体育大学/富山県出身
上市中～埼玉栄高～日本体育大学

'08　インターハイ 複準優勝
　　全日本ジュニア 複優勝
'09　インターハイ 3冠
　　高校選抜 複優勝
　　全日本総合 複8
'10　ロシアオープン 複3位
　　インカレ 複準優勝
　　全日本総合 複8強

【こばやし・あきら】
91年8月19日生（19歳）169cm、60kg
右利き/日本体育大学/長野県出身
下小田中～埼玉栄高～日本体育大学

'08　全日本ジュニア 複優勝
'09　インターハイ 複優勝
　　高校選抜 複優勝
　　全日本総合 複8
'10　ロシアオープン 複3位
　　インカレ 複準優勝
　　全日本総合 複8強





OSHIMA Kazuaki & MITSUHASHI Tomoki

大嶋一彰&三橋智希

【おおしま・かずあき】（写真右）
87年9月9日生（23歳）173cm、78kg
右利き/日立情報通信エンジニアリング/埼玉県出身
埼玉栄中～埼玉栄高～日本大学

'02　全中 複優勝
'08　インカレ 複優勝
'09　インカレ 複優勝
'10　全日本総合 複8強

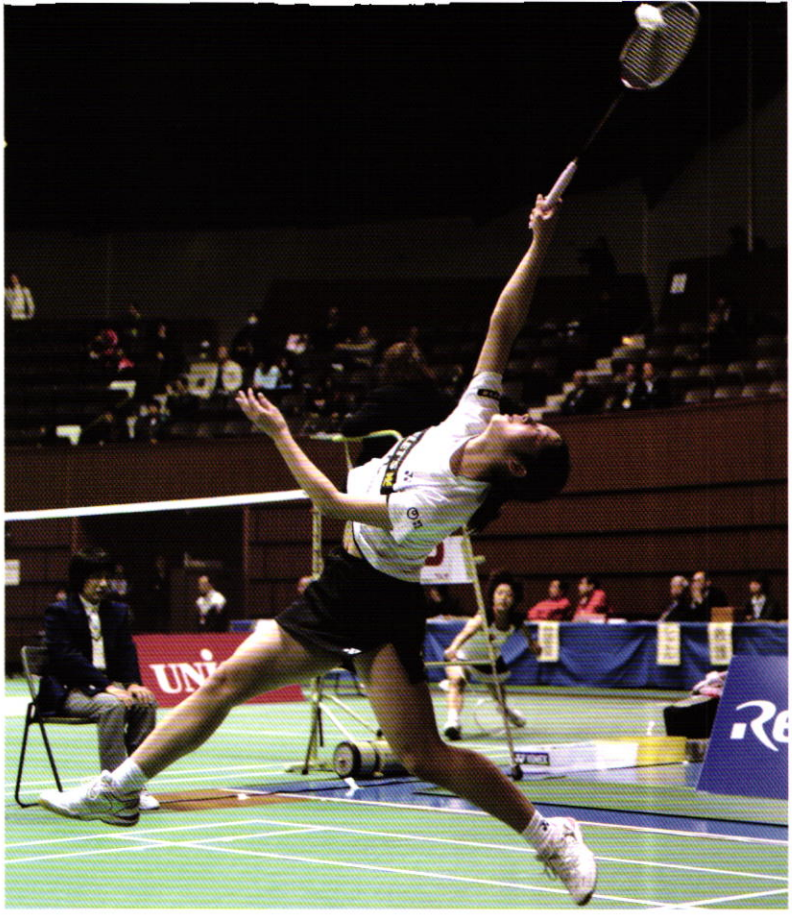
【みつはし・ともき】
87年5月12日生（23歳）169cm、58kg
右利き/日立情報通信エンジニアリング/神奈川県出身
希望が丘中～埼玉栄高～日本体育大学

'05　インターハイ 複優勝
'08　インカレ 複3位
'10　全日本総合 複8強

社会人2年目のペア。三橋のネットプレーが大島の力強いスマッシュを導く。全日本総合では、平田／橋本組の優勝ペアに惜しくも敗れたが、優勝を狙う実力は十分だ。

注目選手

CLOSE UP Women's Singles



社会人2年目の若手有望選手で、キレの良い力強いショットが武器。気迫を全面に全日本総合では3位入賞を果たし、今年はナショナルチームにも選ばれ、国際大会での活躍にも期待がかかる。

MITANI Minatsu

三谷美菜津

【みたに・みなつ】
91年9月4日生（19歳）160cm、54kg
右利き/NTT東日本/石川県出身
美川中～金沢向陽高

'08　高校選抜 単優勝
'09　高校選抜 単2位、複優勝
　　インターハイ 単優勝



SEKIYA Mayu

関谷真由

【せきや・まゆ】
87年2月25日生（23歳）169cm、60Kg
右利き/三洋電機/愛媛県出身
中萩中～九州国際大付高

'08　インカレ 優勝
　　大阪国際 2位
'09　ヨネックスオープンジャパン 8強
　　全日本社会人 8強
'11　オーストリア国際 単2位

高い打点から角度のある攻撃で、08年のこの大会で準優勝を果たす。09年は日本代表としてYYオープンジャパン8強など成績を残すが、その後故障で日本代表からも外れた。ナショナルバックアップチームに復帰した今年は、ゲンの良いこの大会での復活Vが期待される。



昨年は全日本ジュニア、アジアユースを制し、ジュニア世代では敵なし。リバースカットを武器にスピードとラリー力で日本のトップ選手を苦しめる。リオデジャネイロ五輪を狙う期待の星だ。

OKUHARA Nozomi

奥原希望

【おくはら・のぞみ】
95年3月13日生（16歳）154cm、50kg
右利き/大宮東高/長野県出身
仁科台中～大宮東高校

'06　アジアユースU13 単優勝
'08　全日本ジュニア新人 単優勝
'10　全日本ジュニア 単優勝
　　アジアユースU17 単優勝
'11　オーストリア国際 単優勝

注目選手

CLOSE UP Men's Singles



今年からトナミ運輸に移籍した若手成長株の一人。単複をこなす高い運動能力には定評がある。全日本総合で3位入賞を果たしナショナルチーム入りした。スピードとスタミナを武器に国際大会初タイトルを狙う。

SONODA Keigo

園田啓悟

【そのだ・けいご】
90年2月20日生（21歳）168cm、63kg
右利き/トナミ運輸/熊本県出身
八代第三中～八代東高～くまもとYKK AP

'02　全小 単2位
'06　高校選抜 複2位
'07　インターハイ 単複3位
　　世界ジュニア 複8強
'09　全日本社会人 複8強
'10　大阪国際 単複8強
　　全日本総合 単3位

08年からインドネシアで武者修行中で、その成果が昨年の全日本社会人で日本代表を下し4強入りした若手のホープ。全日本総合では16強に終ったがナショナルチーム入りを果たす。インドネシア仕込みのプレーが注目だ。

SAKAI Kazumasa

坂井一将

【さかい・かずまさ】
90年2月13日生（21歳）179cm、69kg
右利き/石川県出身
鳴和中～金沢市立工高～金沢学院クラブ

'04　全中 単8強
'06　高校選抜 単8強
'06、'07　インターハイ 複8強
'10　全日本社会人 単3位





MOMOTA Kento

桃田賢斗

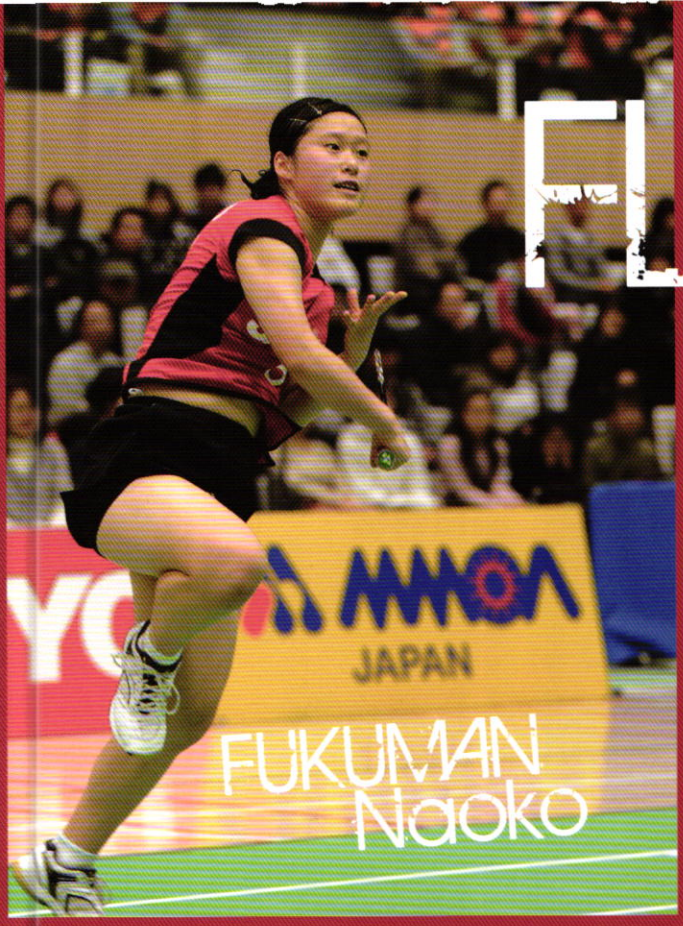
【ももた・けんと】
94年9月1日生（16歳）168cm、56kg
左利き/富岡高/香川県出身
富岡第1中～富岡高

'06　全国小学生 単優勝
'08　全国中学校 単2位
　　全日本ジュニア新人 単優勝
'09　全国中学校 単優勝
　　全日本ジュニア 単3位
　　全日本総合出場

柔らかいタッチから正確なショットを繰り出すとともに、冷静なゲームメイクを武器に中学生で史上初の全日本総合出場を果たした。インドネシア人のようなプレーで、ネットプレーが得意。

FLY HIGH!

地元選手紹介



福万尚子

SANYOジュニアクラブ出身で社会人2年目。この大会で2年連続複3位入賞を果たす。今年は新人の與猶選手とのペアでさらに上位を目指す。また、シングルスでもユースオリンピックに出場するなど、単・複での活躍が期待される。

【ふくまん・なおこ】
92年3月3日生（18歳）155cm、56kg
右利き/三洋電機/大阪府出身
（大東ジュニア）茨田小～楠葉東中～楠葉東高

'08　全日本ジュニア 単2位
'09　高校選抜 単3位
　　大阪国際 複3位
　　インターハイ 単・複3位
　　アジアジュニア 複8強
'10　大阪国際 複3位
　　世界ジュニア 単3位・混合8強
　　ロシアオープン 単・複3位



髙橋沙也加

ジュニア時代から単・複で優勝し、逸材と称されるサウスポー。ラリーを切り裂くような左腕からの鋭いショットは必見だ。社会人1年目からの飛躍を予感させる。

【たかはし・さやか】
92年7月29日生（18歳）168cm、58kg
左利き/三洋電機/奈良県出身
（橿原ジュニア）白橿南小～和合中～高岡西高

'07　全国中学生 単優勝
'08　全日本ジュニア 複優勝
'09　高校選抜 複優勝
　　大阪国際 複3位
　　インターハイ 複優勝
'10　高校選抜 単優勝
　　インターハイ 単優勝・複2位



與猶くるみ

豪快なスマッシュが魅力の社会人1年生。三洋電機で先輩となる福万選手とペアを組み、同僚となる髙橋選手とともにナショナルバックアップチームで世界を目指す。

【よなお・くるみ】
92年12月1日生（18歳）166cm、60kg
右利き/三洋電機/愛知県出身
（はりーあっぷジュニア）中央小学校～刈谷東中～岡崎城西高

'06　アジアユースジャパン 複優勝
'09　全日本ジュニア 複優勝・単3位
'10　インターハイ 複3位

LIST OF WINNER 2007-2010

大阪インターナショナルチャレンジ　歴代ベスト4



2007

MS men's singles

1	SASAKI Sho	佐々木　翔	日本
2	SATO Shoji	佐藤　翔治	日本
3	PARK Tae Sang	朴　泰相	韓国
	PARK Sung Hwan	朴　成奐	韓国

MD men's doubles

1	HAN Sang Hoon CHO Gun Woo	韓　相訓 曺　建雨	韓国
2	SAKAMOTO Shuichi IKEDA Shintaro	坂本　修一 池田　信太郎	日本
3	MASUDA Keita OHTSUKA Tadasi	舛田　圭太 大束　忠司	日本
	BUDIARTO Sigit KURNIAWAN Fran	シギット・ブディアント フラン・クルニアワン	インドネシア

WS women's singles

1	HIROSE Eriko	廣瀬　栄理子	日本
2	YONEKURA Kanako	米倉　加奈子	日本
3	HIRAYAMA Yu	平山　優	日本
	GOTO Ai	後藤　愛	日本

WD women's doubles

1	MATSUDA Tomomi AKAO Aki	松田　友美 赤尾　亜希	日本
2	OGURA Kumiko SHIOTA Reiko	小椋　久美子 潮田　玲子	日本
3	WAKISAKA Aya TATANI Ikue	脇坂　郁 多谷　郁恵	日本
	SUETSUNA Satoko MAEDA Miyuki	末綱　聡子 前田　美順	日本

XD mixed doubles

1	MASUDA Keita MAEDA Miyuki	舛田　圭太 前田　美順	日本
2	CHO Gun Woo HONG Soo Jung	曺　建雨 洪　水晶	韓国
3	HAYAKAWA Kenichi NAITO Mami	早川　賢一 内藤　真実	日本
	HAN Sang Hoon KIM Min Jung	韓　相訓 金　旼貞	韓国

2008

MS men's singles

1	SAEKI Koichi	佐伯　浩一	日本
2	SAENSOMBOONSUK Tanongsak	タノンサック・サエンソンボーンスク	タイ
3	KOZAI Kazuteru	古財　和輝	日本
	YAMAGUCHI Kimihiro	山口　公洋	日本

MD men's doubles

1	KO Sung Hyun KWON Yi Goo	高　成炫 権　利九	韓国
2	KAWAGUCHI Keisi KAWAMAE Naoki	川口　馨士 川前　直樹	日本
3	HAYAKAWA Kenichi KAZUNO Kenta	早川　賢一 数野　健太	日本
	ENDO Hiroyuki YAMADA Kazushi	遠藤　大由 山田　和司	日本

WS women's singles

1	TARUNO Megumi	樽野　恵	日本
2	SEKIYA Mayu	関谷　真由	日本
3	IMAI Sachiyo	今井　幸代	日本
	BAE Youn Joo	裵　延妹	韓国

WD women's doubles

1	OGURA Kumiko SHIOTA Reiko	小椋　久美子 潮田　玲子	日本
2	HA Jung Eun KIM Min Jung	河　貞恩 金　旼貞	韓国
3	ITO Kana NAITO Mami	伊東　可奈 内藤　真実	日本
	MATSUO Shizuka IMABEPPU Yasuyo	松尾　静香 今別府　靖代	日本

XD mixed doubles

1	KWON Yi Goo HA Jung Eun	権　利九 河　貞恩	韓国
2	HIRATA Noriyasu MATSUO Shizuka	平田　典靖 松尾　静香	日本
3	WADA Shu MATSUTOMO Misaki	和田　周 松友　美佐紀	日本
	KO Sung Hyun KIM Min Jung	高　成炫 金　旼貞	韓国

2009

MS men's singles

1	LEE Cheol Ho	李　喆鎬	韓国
2	SHON Wan Ho	孫　完虎	韓国
3	KIM Sa Rang	金　サラン	韓国
	JANG Young Soo	裴　瑛秀	韓国

MD men's doubles

1	HIROBE Yoshiteru KOMIYAMA Hajime	廣部　好輝 小宮山　元	日本
2	HASHIMOTO Hirokatsu HIRATA Noriyasu	橋本　博且 平田　典靖	日本
3	HAYAKAWA Kenichi KAZUNO Kenta	早川　賢一 数野　健太	日本
	KOMATSUZAKI Yuya TAOHATA Ryota	小松崎　佑也 峠畑　亮太	日本

WS women's singles

1	GOTO Ai	後藤　愛	日本
2	KIM Moon Hi	金　紋希	韓国
3	IMAI Sachiyo	今井　幸代	日本
	SUNG Ji Hyun	成　池鉉	韓国

WD women's doubles

1	MATSUTOMO Misaki TAKAHASHI Ayaka	松友　美佐紀 髙橋　礼華	日本
2	MORI Kaori WAKISAKA Aya	森　かおり 脇坂　郁	日本
3	FUJII Mizuki KAKIIWA Reika	藤井　瑞希 垣岩　令佳	日本
	FUKUMAN Naoko TAKAHASHI Sayaka	福万　尚子 高橋　沙也加	日本

XD mixed doubles

1	HSIEH Yu Hsin CHIEN Yu Chin	謝　裕興 簡　毓瑾	台北
2	HIRATA Noriyasu MATSUO Shizuka	平田　典靖 松尾　静香	日本
3	TAOHATA Ryota TAKAHASHI Ayaka	峠畑　亮太 髙橋　礼華	日本
	HASHIMOTO Hirokatsu NAITO Mami	橋本　博且 内藤　真実	日本

2010

MS men's singles

1	SASAKI Sho	佐々木　翔	日本
2	YAMADA Kazushi	山田　和司	日本
3	SAEKI Koichi	佐伯　浩一	日本
	YAMAGUCHI Kimihiro	山口　公洋	日本

MD men's doubles

1	HASHIMOTO Hirokatsu HIRATA Noriyasu	橋本　博且 平田　典靖	日本
2	ENDO Hiroyuki HIROBE Yoshiteru	遠藤　大由 廣部　好輝	日本
3	YAMAGUCHI Kimihiro HORIKAWA Yoshio	山口　公洋 堀川　善生	日本
	SATO Shoji KAWAMAE Naoki	佐藤　翔治 川前　直樹	日本

WS women's singles

1	WANG Rong	王蓉	マカオ
2	IMABEPPU Kaori	今別府　香里	日本
3	HIRAYAMA Yu	平山　優	日本
	SATO Sayaka	佐藤　冴香	日本

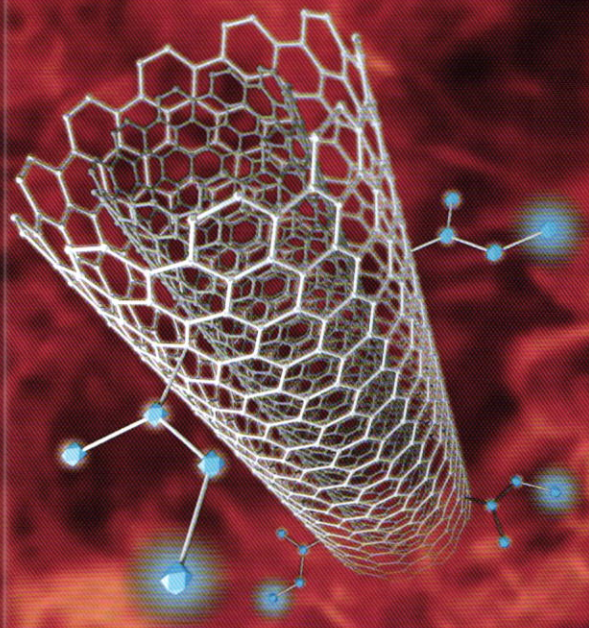
WD women's doubles

1	FUJII Mizuki KAKIIWA Reika	藤井　瑞希 垣岩　令佳	日本
2	MATSUTOMO Misaki TAKAHASHI Ayaka	松友　美佐紀 髙橋　礼華	日本
3	MATSUO Shizuka NAITO Mami	松尾　静香 内藤　真実	日本
	TATANI Ikue FUKUMAN Naoko	多谷　郁恵 福万　尚子	日本

XD mixed doubles

1	HAYAKAWA Kenichi MATSUO Shizuka	早川　賢一 松尾　静香	日本
2	HASHIMOTO Hirokatsu FUJII Mizuki	橋本　博且 藤井　瑞希	日本
3	LIANG Jui Wei SHUAI Pei Ling	梁睿緯 帥佩伶	台北
	KAZUNO Kenta KAKIIWA Reika	数野　健太 垣岩　令佳	日本

最細のシャフトが秘めた
爆発的エネルギー



NANOPREME™

5年にわたる研究・開発で、
「強さ・反発・ねばり」のすべてを叶える
世界初のナノサイエンス素材「ナノプリーム」完成。
シャフト全体に搭載することで実現した
「YONEX史上最細シャフト」から
かつてない爆発的パワーを生み出す
「ボルトリック80」誕生。

www.yonex.co.jp/voltric80/

YONEX®

VOLTRIC 80



VOLTRIC 80

NEW VOLTRIC 80 / ボルトリック80 / VT80　¥23,100（本体価格¥22,000）　日本製



4/8 「大阪インターナショナルチャレンジ2010バドミントン選手権大会」は、今日から本戦が始まった。会場の守口市民体育館のまわりの桜は満開となり、大会の雰囲気をより一層盛り上げる中、各種目で熱戦が展開された。

【混合ダブルス】

混合ダブルス1回戦には、国際大会初優勝を目指す池田新太郎(日本ユニシス)／潮田玲子(三洋電機)がファン・ボーイー／ウー・ティジュン(チャイニーズタイペイ)と対戦した。池田の故障でこれまでの国際大会を欠場していた池田/潮田は、この大会が4カ月ぶりの実戦となった。第1ゲームは確実なストロークでミスの少ない池田／潮田が、序盤から大きくリードを奪う。9−3となったところで、このゲーム初めて池田が後衛からカットやスマッシュで揺さぶり、甘くなったレシーブを前衛の潮田が決める本来の攻撃パターンを見せた。この後も潮田の前衛での素早い動き、池田のスマッシュなどで21−9と簡単に奪った。池田は「4カ月ぶりとは思えないほど、動きも良かった。ケガの間お互いにトレーニングしてきたことが生きた」とコメントしたが、第2ゲームに入ると池田／潮田の配球が単調になった上、イージーミスが出てしまい、ファン／ウーが粘りを見せる。ファンが強烈なスマッシュを決めて4連続ポイントをあげて18−15と追い上げをみせたが、池田/潮田は慌てることなく20−16でマッチポイントを握る。最後は池田の後衛からのスマッシュをレシーブしたウーのレシーブが甘くなったところをそのまま池田が前衛につめて、クロススマッシュを決めて21−16で勝利した。試合後池田は「第2ゲーム後半はミスが多かった。相手がサウスポーでクセ球に対応出来なかった。簡単なミスをしていたら勝てる試合も厳しくなる。」とコメントすれば潮田も「競った試合になったことが、次の試合に向けて良かったと思う。反省を次につなげていきたい」と気を引き締めていた。

【男子シングルス】

男子シングルス1回戦では、今大会2度目の優勝を目指す佐々木翔(トナミ運輸)とシー・クェイチェン(チャイニーズタイペイ)が対戦した。第1ゲーム序盤は相手のミスにも助けられ、佐々木がペースをつかみ11−6とリードする。しかし長身からパワーのあるショットを繰り出すシー・クェイチェンは、角度のあるスマッシュを決めて追い上げ13−13の同点にする。「取れない球ではないが、ぎりぎりを狙いすぎてミスが出てしまった。」と振り返った佐々木はここから、低くて速いロブを左右に運び体勢を崩してミスを誘うなど随所にうまさを発揮してこのゲームを21−19で奪う。第2ゲームは佐々木が完全にペースをつかみ主導権を握る。シー・クェイチェンも粘り強くラリーを展開するが点差をつめることは出来ず、21−11で佐々木が勝利した。佐々木は、一緒に練習する機会が多い田児賢一選手(NTT東日本)が今年3月の全英オープンで準優勝したことについて「世界で強豪を破り勝ち上がっていく姿をみると、自分もいけるのではないかといい刺激を受けた。これをプラスにして自分のバドミントンを貫いて頑張っていきたい。優勝を目指したい。」と力強くコメントした。

【女子シングルス】

女子シングルス1回戦では、大会連覇を目指す後藤愛(NTT東日本)がチャン・ペイシン(チャイニーズタイペイ)と対戦した。「初戦はどの大会も厳しい。集中しないといけないし、気を引き締めている。」と後藤が話すように第1ゲームはうまくシャトルコントロールして相手を動かしミスを誘う展開に持ち込む。しかし「思った以上にチャンのショットが良かった。」と繋いで粘るプレーしかできなかったものの後藤が要所を締めて何とか21−14で奪った。しかしダブルスプレーヤーのチャン・ペイシンはスマッシュに角度があり、第2ゲームに入り後藤を苦しめる。12−11と1点差まで追い上げられた後藤は、ネット前のプレーを焦った相手ミスで13−11とリードを広げるが、チャンの粘りのプレーの前にカットをミスして再び詰め寄られてしまう。「相手に攻撃をしのぐだけのプレーしかしてないことを読み取られ、繋げばなんとかなると思わせてしまった」と後藤が試合後反省したように、苦しみながらも21−16で勝利した。「大会のレベルが上がっていて厳しい戦いだ。ナショナルメンバーなので負けられない。優勝は考えずにひとつひとつ目の前の試合を頑張る。」と練習で取り組んでいる課題を含めて気持ちは前向きで、目標はさらに高い所に置いているようだ。

【男子ダブルス】

この大会第2シードの川前直樹/佐藤翔治(NTT東日本)はチェン・チュンジュン／リャン・ジュイウェイ(チャイニーズタイペイ)と対戦した。川前／佐藤はペアを組み始めてちょうど1年余り。海外ではカナダ国際で優勝、世界選手権でもベスト16に入るなど今大会の優勝候補のひとつ。第1ゲームは「シャトルが飛ばずに、落ち着いたプレーができた。」と川前が話すように、積極的に攻めるチェン／リャンに対して、確実なレシーブ、川前の後衛からのスマッシュに前衛の佐藤が丁寧にネット前に運ぶミスのないプレーで一方的に押し切り21−9で奪った。この流れは第2ゲームになっても変わることはなく、攻守に上回る川前/佐藤が伸び伸びと動きまわる。7−6から連続4ポイントをあげた場面では、佐藤がカット、スマッシュと攻めて自ら前衛につめてドライブ攻撃を見せるなど、コンビネーションもよく相手を寄せつけないプレーで21−15のストレートで勝利した。



【女子ダブルス】

女子ダブルス1回戦では昨年のこの大会で優勝を飾った高橋礼華／松友美佐紀（日本ユニシス）が同じ所属チームの浅原さゆり／金森裕子（日本ユニシス）と対戦した。

第1ゲーム開始からお互いに手の内を知り尽くしているだけに、長いラリーの応酬となった。そうした中で高橋／松友は自分たちの持ち味である、高橋が後衛からの攻め、松友が前衛をさばくスタイルを見せれば、浅原／金森は積極的に攻撃を仕掛けていくお互いに一歩も引かない熱戦となった。ゲームの分かれ目となったのは浅原／金森が17－16とリードした場面。ここで金森のロングサーブがアウトとなり17－17の同点に高橋／松友が追いつくと、続くプレーで浅原のネット前に運ぼうとした球がネットを越えず18－17と高橋／松友がリードした。粘る浅原／金森も再び同点にするものの、連続3ポイントを奪われ高橋／松友が、21－18で奪った。第2ゲームはいきなり浅原／金森が連続4ポイントをあげリードする。松友は「1ゲーム目を競って取ったので、離されないように注意してゲームに入ったが集中しきれなかった。」と反省したが、高橋／松友も連続5ポイントを奪い逆転する。高橋は「相手の弱いところをしっかりと攻めていき得点を積み重ねていくことができた。」と振り返ったように11－10から金森が高橋／松友の体勢を崩してチャンスと思われたところで、スマッシュをミスしてしまい流れは高橋／松友に傾いた。結局21－13で高橋／松友が勝ち2回戦に駒を進めた。高橋／松友は「最後まであきらめず粘って勝つことができた。修正しないといけないところをちゃんと修正して明日の試合に臨みたい。」とコメントした。



4/9

「大阪インターナショナルチャレンジ2010バドミントン選手権大会」今日は2・3回戦が行われ各種目のベスト4が出そろった。

【男子シングルス】

男子シングルス準々決勝では、園田啓悟（トナミ運輸）と佐伯浩一（NTT東日本）が対戦した。園田は所属チームを変わって心機一転してこの大会を迎え、対する佐伯は2008のこの大会のチャンピオンだが、昨年は初戦で敗退しておりその戦いぶりが注目された。第1ゲームは佐伯が長身を生かしたジャンピングスマッシュやカットを有効に使って自分のペースに持っていく。「昨年の日本リーグで対戦して敗れていたので、どうしても負けられない。」という気持ちで臨んだ佐伯がスピードでも上回り21－16で奪った。「ナショナルチームから外れゼロからのスタートなので、試合に集中して平常心で戦っていることが成績につながっている。」と話す佐伯は、第2ゲームに入っても慌てることなくゲームメイクしていく。豪快なスマッシュでマッチポイントを握ると最後もスマッシュを決めて、粘る園田を退け21－16でベスト4入りを決めた。準決勝で対戦する佐々木翔（トナミ運輸）については「日本でもトップレベルの選手。勝ったことはないが、ナショナルを倒したいと思って頑張る」と力強くコメントした。

【男子ダブルス】

男子ダブルス準々決勝では、パン・チーシャン／ファン・インヤン（チャイニーズタイペイ）と遠藤大由／廣部好輝（日本ユニシス）が対戦した。第1ゲームはいきなりパン／ファンが連続4ポイントをあげてリードする。しかし地力に勝る遠藤／廣部は慌てることなく連続6ポイントをあげてあっさり逆転する。12－7と遠藤／廣部がリードした場面では、パン／ファンの連続攻撃を堅いレシーブで凌いだ遠藤が、空いたコートに絶妙のネットショットを決めて突き放し、結局21－12で遠藤／廣部が奪った。第2ゲームは10－9とパン／ファンに詰め寄られたものの、攻めるパンのスマッシュがネットにかかり同点を許さない。危なげない戦いぶりをみせた遠藤／廣部が21－15で勝利した。試合後遠藤は「最低でもベスト4以上を狙って準備してきたので明日は思いっきり自分のプレーをしたい。」と川前直樹／佐藤翔治（NTT東日本）との対戦に闘志を燃やしていた。

【女子シングルス】

女子シングルス準々決勝では、松友美佐紀（日本ユニシス）と佐藤冴香（日本体育大学）の若手同士の対戦となった。昨年12月の全日本総合で3位に入った松友に対し、佐藤は2009ニュージーランドOPで優勝し、長身からの迫力あるスマッシュが武器だ。第1ゲームは松友が常にリードを保った展開となる。松友のコートを広く使うプレーに佐藤がミスを重ねてしまう。20－16から佐藤はようやく得意のスマッシュで点差をつめたものの最後は松友のスマッシュをレシーブできず21－19で松友がこのゲームを奪った。しかし佐藤は「第2ゲームは負けないよう自分から攻めていこう。」と気持ちを切り替えて臨み、今度は第1ゲームとは逆に佐藤が常にリードする。7－6と1点差に詰め寄られたものの、連続6ポイントを奪って突き放し第2ゲームは21－11で佐藤が奪い決着はファイナルゲームにもつれ込んだ。ファイナルゲーム序盤は松友が絶妙のクロススマッシュなどで7－3とリードする。これに対し佐藤はスマッシュとカットをうまく使って松友を揺さぶり、ミスを誘いついに7－7の同点に追いつく。ここからはお互いに一歩も譲らない展開となったが、「ネット前のプレーが良かった。」と振り返った佐藤が20－17としてマッチポイントをつかんだ。しかし松友はここから粘りをみせて連続でレシーブをネットインさせて20－20の同点とした。しかしここで松友がスマッシュをミスし、佐藤が再びマッチポイントを握ると、松友のレシーブが甘くなったところを佐藤がネット前につめてスマッシュを決めて22－20で勝利し準決勝に進んだ。明日の今別府（三洋電機）との対戦について「ランキングサーキットで0－2で敗れているので、今日のように向かって行く気持ちで気迫あるプレーをしたい。」と抱負を語った。

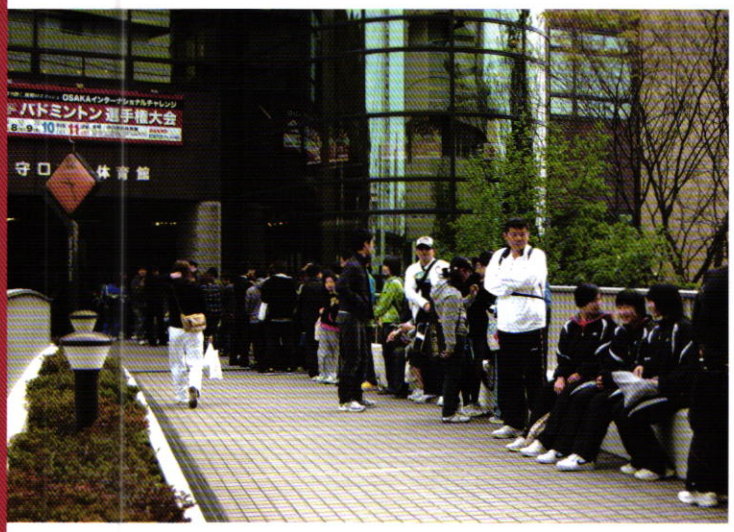
【混合ダブルス】

混合ダブルス準々決勝では、池田信太郎（日本ユニシス）／潮田玲子（三洋電機）と早川賢一（日本ユニシス）／松尾静香（三洋電機）が対戦した。早川と松尾はペアは違うもののこの大会で、早川は2007に3位、松尾は2008、2009と2年連続準優勝を果たしている。第1ゲーム主導権を奪ったのは早川／松尾。5－5の同点から潮田の中途半端なサーブレシーブで得点を加えると、池田もロングサーブをスマッシュで返そうとしたもののネットにかけてしまう。池田は「簡単なミスをなくし、サーブまわりのプレッシャーをはねのけていきたい。」と初戦を終えて話していたが、ミスからうまくリズムを作ることができない。また、池田が試合序盤で足を痛めたこともあり、動きに精彩を欠いて点差を広げられてしまう。結局21－15で早川／松尾がこのゲームを奪った。第2ゲームは池田のスマッシュに潮田がネット前で決める本来の攻撃もみせて1点を争う好ゲームとなった。13－12と池田／潮田がリードした場面でも、池田のロングサーブがアウトとなってしまい13－13の同点とされてしまう。こうなると早川／松尾が流れを引き寄せ早川の強烈なスマッシュや、松尾のクロスカットが決まり20－15でリードすると最後は早川のサーブを潮田はウォッチしたが、主審の判定はIN。結局21－15のストレートで早川／松尾が勝利した。



【女子ダブルス】

女子ダブルス準々決勝では、昨年の全日本総合で初優勝を飾った内藤真美／松尾静香（三洋電機）と小森美希／三好奈緒（北都銀行）が対戦した。第1ゲームは小森／三好がコンビネーションよく攻めて6－3とリードする。これに対して内藤／松尾は長いラリーに持ち込み、内藤の後衛からのスマッシュに松尾がしっかり前衛で決める自分たちのリズムを作っていく。8－8の同点から連続4ポイントをあげた内藤／松尾だが、粘る小森／三好も三好のクロススマッシュなどで再び11－11の同点に追いつく。しかし流れを変えたのは松尾のセンターへのカット。これに小森／三好は対応できず、ここから連続5ポイントをあげた内藤／松尾が、結局追い上げを許さず21－18で奪った。第2ゲームになると内藤／松尾の厳しい攻撃に小森／三好はミスが続いてしまう。内藤/松尾は20－10でマッチポイントを握ると最後は内藤のドライブを三好は返すことができず21－10で勝利した。明日の藤井瑞希／垣岩令佳（ルネサスSKY）との対戦について内藤は「最近の合宿では勝てない相手なので、自分たちの力を出し切れるまで持っていけるように頑張ります。」と話した。



4/10 「大阪インターナショナルチャレンジ2010バドミントン権大会」今日は、準決勝が行われた。春めいたとはいえ、まだ肌寒い大阪地方。しかし会場の守口市民体育館の室内気温は試合開始の11時には22.6度と熱気につつまれた。

【混合ダブルス】

混合ダブルス準決勝ではリャン・ジェイウェイ／シュアイ・ペイリン（チャイニーズタイペイ）と早川賢一（日本ユニシス）松尾静香（三洋電機）が対戦した。第1ゲーム立ち上がり、松尾が返球のコースを読み、ネット前で決めて好スタートを切った早川／松尾だが、リャンの巧みさと強いスマッシュに中盤まで苦しむ場面もあった。9−8と早川／松尾がリードした場面でリャンがこのゲーム2本目となる、巧みなサーブレシーブで同点とされる。さらにリャンのドライブが早川の逆サイドをつき、シュアイにネット前で決められ9−11と逆転されてしまう。「緊張感がなかなかとれなかった。」と話す早川だが、角度あるスマッシュで次第に自分たちのペースに持ち込んでいく。相手ミスにも乗じて12−11と逆転すると、早川／松尾が抜け出して得点を重ねていき結局21−14で奪った。第2ゲームも12−12までは1点を争う展開となったが、リャン／シュアイのサーブまわりのミスや松尾のネット前の素早さ、早川のスマッシュで連続6ポイントをあげ突き放すと、最後はリャンを揺さぶりレシーブが甘くなったところを松尾が決めて21−13で勝利した。決勝の相手が橋本博且（トナミ運輸）／藤井瑞希（ルネサスSKY）になったことについて、早川は「相手ペアの方がペアとしての経験が多いので、ぶつかっていく気持ちで、自分たちペアの満足できる試合にしたい。」と抱負を語った。

【男子シングルス】

男子シングルス準決勝では、佐伯浩一（NTT東日本）と佐々木翔（トナミ運輸）が対戦した。ともに過去にこの大会で優勝しており2回目の優勝を目指している。第1ゲームは佐伯の攻撃力が佐々木を上回り6−2とリードする。佐伯は長身を生かしてジャンピングスマッシュを決めていくのに対して、佐々木は守勢にまわる場面が多く、持ち前のスピードとスマッシュ力を発揮することができない。15−10と佐伯はリードを保っていたが、ここから連続4ポイントを奪われ15−14の1点差となる。流れを変えたのは、佐々木の絶妙のネット前のショット。さらにクロススマッシュを決めてこのゲーム初めて17−16と逆転する。20−18と佐々木がスマッシュでゲームポイントを握った時には、苦しい展開だっただけに大きくガッツポーズをする。結局21−18で佐々木が奪った。第2ゲームは積極的に攻め続ける佐伯が常にリードする展開となる。佐々木は「このところ国際大会などで勝てていないので、勝たなければという気持ちがあって緊張があった。」と話すように、大きくスマッシュをサイドアウトさせるなど焦りも見られ、このゲームは21−14で佐伯が奪った。ファイナルゲームは、佐々木が柔らかいロブを使って佐伯に攻撃させない展開に持っていく。13−8と佐々木がリードした場面では、佐々木の角度あるスマッシュに佐伯は一歩も動けず、連続4ポイントを奪い突き放すと、最後はスマッシュを決めて21−15で佐々木が勝利し決勝に駒を進めた。「試合はお互いに気持が入っていていい試合だった。しかし力が入ってミスが出てしまい普通のプレーになってしまった。」と佐々木は試合を振り返った。明日の決勝では山田和司（日本ユニシス）と対戦する。

【女子シングルス】

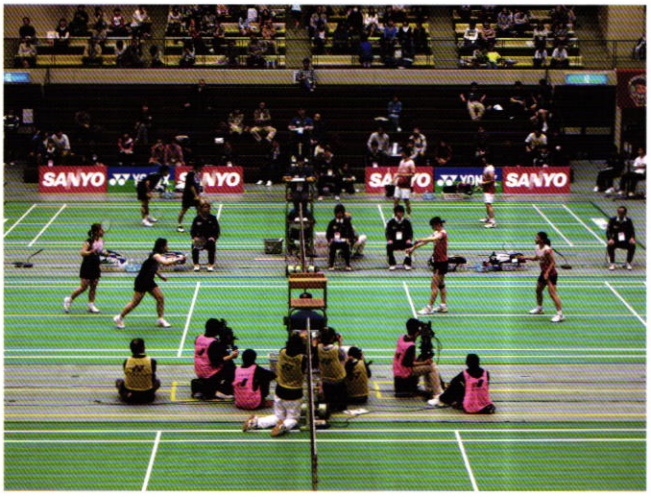
女子シングルス準決勝では、佐藤冴香（日本体育大学）と今別府香里（三洋電機）が対戦した。第1ゲーム序盤、今別府は佐藤のバック奥にシャトルを集め、連続5ポイントを奪って7−3と優位に試合を進めていく。また、ドリブンクリアーを多用して佐藤に思うように攻撃させないプレーで20−12とあっさりゲームポイントを握ると、最後はクロスカットを決めて今別府がこのゲームを奪った。第2ゲームは、1点を争う好ゲームとなった。今別府は第1ゲーム同様コートを広く使って揺さぶり、佐藤はカットを織り交ぜながら積極的に攻撃を仕掛けていく。 15−15の同点から今別府のドリブンクリアーがアウトとなると、佐藤はフォア奥へ厳しいロブを放ちミスを誘い、さらにスマッシュを決めるなどして連続ポイントをあげて19−15とした。今別府は粘りをみせ19−18と1点差まで追い上げたが、20−18とゲームポイントをつかんだのは佐藤。しかし佐藤はロブをサイドアウトにしてしまうと、スマッシュもネットにかけてしまい20−20の同点にされてしまう。今別府は「ラリーの手もあったが、先に攻めてスピード勝負でいこうと思った。」と、ここから積極的に攻撃を仕掛けていく。この強い気持ちが佐藤を上回り結局26−24で接戦をものにした。「しっかり練習してきたことが出せるようメンタル面でも強くなった。ここで優勝して、また日本代表として世界で戦いたい。」と力強くコメントした。明日の決勝戦はワン・ロン（マカオ）との対戦となった。

【男子ダブルス】

男子ダブルス準決勝では、平田典靖／橋本博且（トナミ運輸）と山口公洋／堀川善生（NTT東日本）が対戦した。平田／橋本は昨年のこの大会で準優勝、ヨネックスOPジャパンでもベスト8に入るなど力をつけてきている。一方、山口／堀川も堀川のスマッシュに山口がネット前で厳しく決めていき、しつこいレシーブで勝ち上がってきた。第1ゲームは序盤から激しいドライブの応酬となったが、平田/橋本がミスも少なく得点を重ねていく。「経験の差がでたのかなと思う。さほど緊張はしなかった。」と平田が話すように8−8の同点からは、橋本の後衛からのジャンピングスマッシュに平田の前衛での素早い攻撃で連続5ポイントを奪う。結局攻守に勝る平田／橋本が21−16でこのゲームをものにする。「優勝を狙って気持ちをいれてやってきた。国際大会でのタイトルを持っていないので優勝したい。」と平田/橋本は第2ゲームに入っても攻撃の手を休めることなく、一方的な展開に持ち込み結局21−9で勝利した。決勝は遠藤大由／廣部好輝（日本ユニシス）との対戦について平田は「レシーブ力があるので打ち勝っていく。」遠藤も「勝ちたい気持ちで相手を上回って勝ちたい。」と闘志を燃やしていた。

【女子ダブルス】

女子ダブルス準決勝では、藤井瑞希／垣岩令佳（ルネサスSKY）と内藤真美／松尾静香（三洋電機）が対戦した。第1ゲーム序盤はお互いに点数を取りあう静かな立ち上がりとなった。7−6と藤井／垣岩がリードするとこのゲーム初めて長いラリーが展開される。これをものにしたのは積極的に攻撃する藤井／垣岩。垣岩のスマッシュを内藤がレシーブできず得点を加え10−6とリードを広げる。この流れは結局ゲーム終盤まで変わることはなく21−16で藤井／垣岩が奪った。第2ゲームに入ると内藤／松尾が積極的に攻め強い球を出すようになる。しかし「ローテーションの役目がわかってきてスピードに乗っていけるようになった。打ち続けることができる。」と藤井が話すように、10−9とリードすると内藤/松尾のミスに、垣岩のセンターを狙ったスマッシュが鮮やかに決まるなど連続4ポイントを奪って引き離すと、結局21−13で藤井／垣岩が勝利した。垣岩は「基本的には私が後衛で藤井先輩が前衛だが、どちらでも攻めていけるようになってきた。」と実力アップを実感しているようだ。明日の決勝は高橋礼華／松友美佐紀（日本ユニシス）との若手対決となる。



4/11

「大阪インターナショナルチャレンジ2010バドミントン選手権大会」は今日最終日を迎え、各種目の決勝戦が行われた。

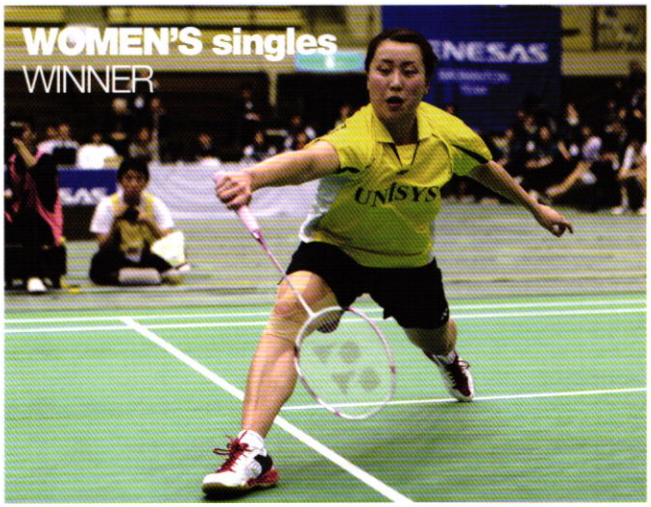
[男子シングルス]

男子シングルス決勝は山田和司(日本ユニシス)と佐々木翔(トナミ運輸)が対戦した。第1ゲームは佐々木がスマッシュで圧倒するスタートとなり6−0とする。佐々木が7−2とリードした場面でこのゲーム初めて激しい攻防が展開されたが、最後は佐々木の柔らかなロブが山田のフォア奥に運ばれ得点を加える。昨日勝ちたい気持ちが強すぎて力みにつながっていると反省した佐々木は、今日は落ち着いたプレーでミスも少なく、シャトルコントロールに苦しむ山田を結局21−14でこのゲームを奪った。第2ゲームは山田がいきなり連続5ポイントをあげてスタートした。佐々木は強烈なスマッシュがサイドアウト、またヘアピンをミスしたが自分の持ち味のプレーを貫き徐々に点差をつめていく。12−11と山田がリードを保っていたが、ここで佐々木は強烈なジャンピングスマッシュでついに同点に追いつく。佐々木は「あきらめずについていこうと思っていたらチャンスがきたので攻めた。」と振り返ったが、山田もここで簡単にリードを許さない粘りでクロススマッシュやカットを有効に使って対抗する。16−16から山田が2本続けてロブをミスしてしまい佐々木がリードする。20−17でマッチポイントをつかむと山田のバック奥に早いロブを送り、甘くなった返球を豪快にスマッシュで決めて21−17で勝利し3年ぶり2度目の優勝を飾った。佐々木は「前回の優勝に比べて今回は重みが強いと思う。国際大会で勝てなくても自分を見失うことなく、向き合ってきたことが勝てたのではないか。海外のエースと対戦して負けているが、自分のバドミントンを今後も貫いていきたい。」と喜びを話した。



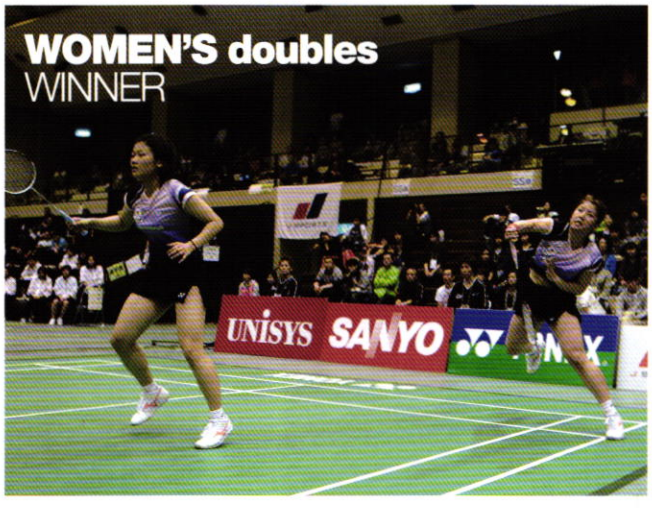
[女子シングルス]

女子シングルス決勝はワン・ロン(マカオ)と今別府香里(三洋電機)が対戦した。ワンは準決勝で平山優(日本ユニシス)をファイナルで、対する今別府は佐藤冴香(日本体育大学)をストレートで破り、ともにこの大会初優勝を目指しての戦いとなった。第1ゲーム、今別府は昨日に続き、先に攻めていこうという気持ちを前面に出して、ラリーをせずにスマッシュで攻めていく。これに対してワンは粘り強く大きくラリーを展開しようとする。今別府が連続6ポイントをあげて11−7と逆転したが、ワンも今別府のミスにつけこんで追い上げをみせる。この悪い流れを断ち切ったのはやはり今別府のスマッシュで一旦は16−12とリードを広げる。しかし昨年中国の国体にあたる中国マスターズ団体戦で優勝、タイグランプリゴールドで準優勝と実績を持つワンは、要所で角度のあるスマッシュなどを決めて19−19と同点に追いつくと今別府のスマッシュミスで20−19とマッチポイントを握った。しかし勝負を決めに行ったワンのスマッシュミスで今別府が追いつくと、22−20で今別府が奪った。第2ゲーム序盤はお互いに一歩も譲らない展開となった。しかし中盤にかけて今別府にミスが出て16−11とワンがリードする。今別府はさらにチャンスにスマッシュをネットにかけるなどリズムに乗れないまま20−13とゲームポイントをつかんだ。しかし練習量をこなしメンタル面でもしっかりしてきた今別府はあきらめず、甘いヘアピンをプッシュして押し込むと、スマッシュやカットで連続6ポイントを奪い20−19としたが、最後はロングサーブに対してクロススマッシュを決めたワンがこのゲームを奪った。ファイナルゲームも1点を争う好ゲームとなった。お互いに持ち味をだしての息詰まる熱戦に観客が静かにラリーを見守る中、14−14から抜け出したのはワン。クロスヘアピンやスマッシュで19−14として今別府の反撃を食い止めたワンが、最後も強烈なスマッシュを決めて21−17で初優勝を飾った。優勝したワン・ロンは「コントロールしながらの配球の正確性を心がけたことが優勝につながったと思います。追い上げられても気持ちを安定させるようにしました。国際大会の優勝は初めてなのでうれしい。」と喜びを話した。惜しくも準優勝に終わった今別府は「2ゲーム目で力を出し切れなかったことに悔いが残る。しかし大会を通じて練習してきたことを出せたし、自分のプレーができた。」とコメントした。



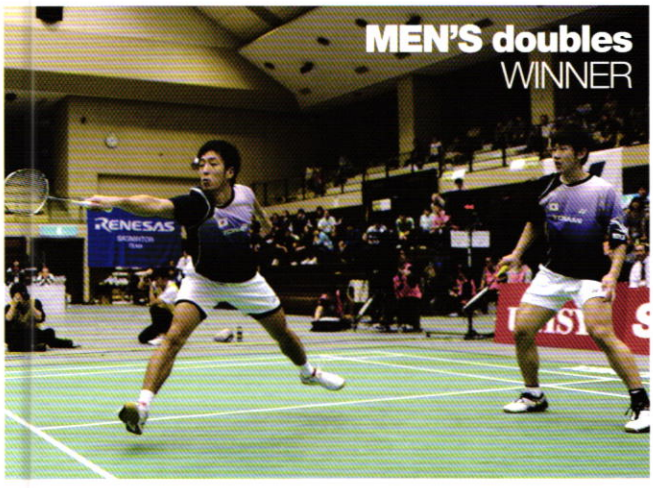
[女子ダブルス]

女子ダブルス決勝は、藤井瑞希／垣岩令佳(ルネサスSKY)と高橋礼華/松友美佐紀(日本ユニシス)が対戦した。藤井／垣岩は準決勝で全日本総合優勝の内藤真美／松尾静香(三洋電機)をストレートで破り、対する高橋／松友はこの大会連覇を目指す。第1ゲームは藤井／垣岩がいきなり7−2と大きくリードする。しかし高橋／松友は相手のスマッシュミスや高橋がスマッシュを決めるなどして連続8ポイントをあげて10−7と逆転する。流れは一気に高橋／松友に傾きかけたが、16−12とリードされた藤井／垣岩はしっかりレシーブして攻撃を仕掛け、ついに16−16の同点に追いつく。ローテーションがうまくいくようになりスピードをあげていけるようになった藤井／垣岩は、最後まで積極的に攻撃していき20−19でゲームポイントをつかむと、最後は藤井のスマッシュに垣岩がネット前をしっかり決めて21−19で奪った。第2ゲームは7−8とリードされた高橋／松友が、松友の鮮やかなクロスヘアピンで同点にすると、さらに垣岩のカットミスなどで11−8と逆転する。しかし垣岩がジャンピングスマッシュを放つなど攻撃的なプレーを展開する藤井／垣岩は、連続5ポイントをあげて14−13と逆転する。流れを引き寄せた藤井／垣岩は勝負どころの終盤の長いラリーを、高橋のスマッシュミスで得点を加えると最後は、藤井がスマッシュを決めてこの大会初優勝を飾った。藤井は「前半守ってしまい、昨日のようなプレーができず苦しかった。ミスしても前向きにプレーしたことがよかった。最終的にはオリンピックに出たいので、これからの試合をしっかり戦っていきたい。」垣岩も「2ゲーム目は先輩に助けられた。1本1本前向きにプレーできた。オリンピック出場という大きな目標があるので勝っていく試合をしていきたい。」と抱負をコメントした。



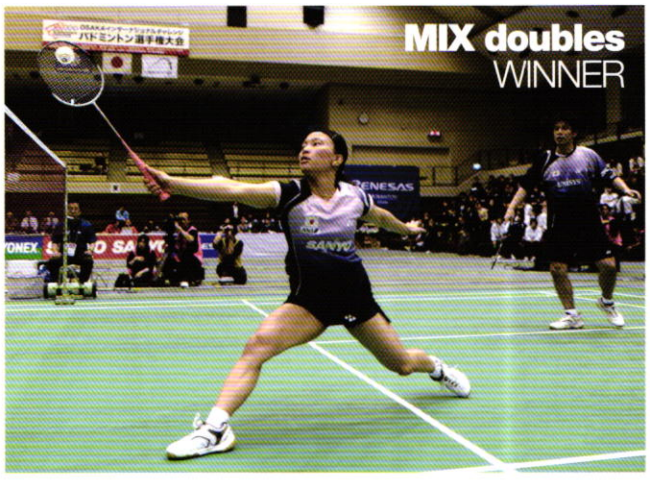
【男子ダブルス】

男子ダブルス決勝戦は、橋本博且／平田典靖(トナミ運輸)と遠藤大由/廣部好輝(日本ユニシス)が対戦した。全日本総合チャンピオン橋本／平田の攻撃型に対しレシーブ力のある遠藤/廣部との楽しみな対決となった。第1ゲームは静かな立ち上がりとなったが、橋本／平田に細かなミスが出てしまい、遠藤／廣部が連続4ポイントをあげるなど優位にゲームを運ぶ。13−10の場面では橋本／平田の分厚い攻撃を凌いだ遠藤／廣部は、遠藤がスマッシュからネット前につめて決めると、さらに遠藤が後衛から豪快にスマッシュを沈めて16−10と引き離す。このままのリードを守った遠藤／廣部が18−16から連続ポイントをあげて21−16で奪った。第2ゲームに入っても橋本／平田は持ち味の攻撃が決まらず、厳しくいこうとしてミスが出てリズムに乗れない。10−10の同点から平田のカットを廣部がネット前に出て決めると、遠藤も平田のクロスロブに飛びついてスマッシュを決める。しかし全日本チャンピオンとして負けられない橋本／平田はしぶとく繋いでチャンスを確実にものにしていき、連続ポイントで17−14と逆転する。この後猛然と追い上げられ、遠藤／廣部にマッチポイントを握られたが、これを凌いだ橋本／平田が22−20で取り返し、決着はファイナルゲームに持ち込まれた。ファイナルゲームは、お互いに負けたくない気持ちが強く出た接戦となったが、9−9から抜け出したのは橋本／平田。「決まったと思った球がレシーブされ苦しかったが、最後は橋本が打つ。」と信じていたと平田は振り返ったが、その言葉通り橋本の強烈なスマッシュにリターンが甘くなるところを、平田が前衛で決めるなどようやく攻撃にリズムが出てくる。こうなるとレシーブ力のある遠藤／廣部も耐えきれなくなりポイントを許してしまう。結局21−17で橋本／平田がこの大会初優勝を飾った。試合後平田は「1・2ゲームとも相手のペースだったが、2ゲーム後半から巻き返せてよかった。総合に続いて勝てたことは良かった。」橋本も「とりあえずうれしい、ほっとしている。」と激戦を制した喜びを語った。



【混合ダブルス】

混合ダブルス決勝戦は、早川賢一(日本ユニシス)／松尾静香(三洋電機)と橋本博且(トナミ運輸)／藤井瑞希(ルネサスSKY)が対戦した。この種目では過去外国勢が優勝を飾っており、今回日本ペアが初めて頂点に立つことになる。第1ゲーム序盤、早川／松尾がいきなり5−0とリードする。しかし橋本/藤井も橋本のスマッシュや相手ミスなどで5−4と追い上げる。動きの固い橋本／藤井に対し早川／松尾はコンビネーションもよく早川の気迫あふれる強打が目立つ展開となる。11−10と早川／松尾がリードした場面で橋本がサーブミス、さらにサーブプッシュがアウトとなり点差を広げると「昨年のジャパンOPで対戦して、序盤のリードで一気にいけたのでいいイメージで戦えた」と早川が振り返ったように、ペースをつかんだ早川／松尾が21−14でこのゲームを奪った。第2ゲームに入っても早川/松尾は「二人に迷いがなく動きが良かった」と松尾が話すように5−4から連続4ポイントをあげ優位に試合を進めると、早川のスマッシュに松尾もネット前でクロスヘアピンやプッシュを確実に決めて20−11でマッチポイントを握ると、「早川さんからネット前につめるように」とアドバイスを受けた松尾が橋本のショットをプッシュして21−11で初優勝を飾った。優勝した早川は「ダブルスで負けていたので何としても優勝したかった。気持ちの入りかたが良かった。」松尾も「勝ちたい気持ちが強かった」と喜びを素直にコメントした。



オグッチ 感動を ありがとう



また会場では現役引退を発表した、小椋久美子さんの引退セレモニーが決勝戦に先立ち行われた。小椋久美子さんは1983年三重県生まれ。8歳の時にバドミントンと出会い、高校卒業後三洋電機に潮田玲子選手とともに入社。"オグシオ"が誕生した。2004から全日本総合ダブルス5連覇、2006アジア大会銅メダル、2007世界選手権銅メダル、2008大阪インターナショナル優勝、北京オリンピック5位入賞と輝かしい成績を残している。2008の全日本総合選手権優勝を最後に"オグシオ"ペアを解散した。プレースタイルは潮田の粘り強い配球に小椋が強烈なスマッシュで決める。強さと美しさを兼ね備えたプレーはバドミントンファンならずとも魅了した。引退セレモニーでは、まず小椋さんが「数多くの方々の支えがあったからこそ、バドミントンをやってこれました。これからは何かの恩返しができたらと考えています。」と挨拶しました。続いて花束贈呈が行われ、三洋電機の中島慶コーチに続いてペアを組んでいた潮田玲子選手が花束を贈ると会場から大きな拍手がおくられました。そして潮田選手が「本当にお疲れさまでした。頑張り屋のオグッチなので、いろいろなことにチャレンジして頑張って下さい。」と涙を浮かべて話すと、小椋さんは「テレビを通してプレーを見ているが大変だと思います。ロンドンを目指すことを応援しています。」とエールを送った。そしてつめかけた多くのファンに、会場をゆっくり回りながらサイン入りのシャトルを投げ入れてこれまでのバドミントン生活に別れを告げた。"ありがとうオグッチ"

バドミントン見るなら J SPORTS!

J SPORTS

Photo:AFLO



大阪インターナショナルチャレンジ 2011 独占放送!

各種目決勝の模様を中心にお届け! J sports ESPN

放送スケジュール

#1 4/12（火） 18:00〜20:00	4/18（月） 16:00〜17:00[再放送]
#2 4/13（水） 17:00〜19:00	4/19（火） 15:00〜17:00[再放送]
#3 4/14（木） 17:00〜18:00	4/20（水） 15:00〜17:00[再放送]

2011年主な放送予定

- 大阪インターナショナルチャレンジ
- 世界選手権（予定）
- YONEX OPEN JAPAN
- 日本リーグ20110（開幕戦・最終戦含む複数大会を放送）

J SPORTS オフィシャル webもチェック!



大人気 陣内貴美子さん コラム





代表だより
舛田コーチ・米倉コーチの日本代表だよりも必見!
選手インタビュー
スペシャルムービー
会員限定メルマガ

会員特典もあるSTYLE会員（無料）も随時受け付け中!
J SPORTS STYLE バドミントン会員登録はコチラから

www.jsports.co.jp/tv/bad/

J SPORTSはスカパー!、スカパー!e2、CATVでご覧いただける国内最大のスポーツ専門TV局です。 番組に関するお問い合わせ先:J SPORTS カスタマーセンター 03-5500-3488（10:00〜18:00）

スカパー!e2で見る

デジタルテレビで今スグ見られる! 電話1本で16日間無料!

○専用アンテナがない場合など、一部視聴できない可能性があります。○既に、ご加入および16日間無料体験サービスをご利用頂いたお客様は対象外となります。

0120-097-992

受付時間 10:00〜20:00（年中無休） おかけ間違いのないように。

お電話の際は「J SPORTS バドミントン広告を見ました」とお伝えください。

スカパー!e2

※個人情報の取扱い規定につきましては、プライバシーポリシー（http://www.e2sptv.jp/privacypolicy/）に記載しております。

ケーブルテレビで見る

J:COMほかお近くのケーブルテレビ局まで

J SPORTS ケーブルテレビ視聴 検索

※ご覧いただけるJ SPORTSのチャンネルはケーブルテレビ局により異なります。

※J sports Plusは有料オプションチャンネルとなります。

LIST OF COMPETITORS

出場予定選手

JAPAN

氏　名	ヨミガナ	所属	出場種目	種目別出場基準
園田　啓悟	ソノダ　ケイゴ	トナミ運輸	MS, MD	NT/MS, SP/MD
坂井　一将	サカイ　カズマサ		MS	NT/MS
早崎　修平	ハヤサキ　シュウヘイ	日立情報通信エンジニアリング	MS	NB/MS
武下　利一	タケシタ　リイチ	敬和学園大学4年	MS	NB/MS
和田　周	ワダ　シュウ	日本体育大学3年	MS, MD	NB/MS, MD
佐藤　黎	サトウ　レイ	日本体育大学3年	MS, MD	NB/MS, MD
銭谷　翔	ゼニヤ　ショウ	トナミ運輸	MS, MD	NB/MS, MD
渡邊　達哉	ワタナベ　タツヤ	日本体育大学2年	MS, MD	NB/MS, MD
桃田　賢斗	モモタ　ケント	富岡高校2年	MS, MD	NB/MS, MD
竹内　宏気	タケウチ　ヒロキ	NTT東日本	MS, MD	NB/MS, MD
大越　泉	オオコシ　イズミ	NTT東日本	MS, MD	NB/MS, MD
古賀　輝	コガ　アキラ	埼玉栄高校3年	MS, MD	NJ/MS, MD
渡部　大	ワタナベ　ダイ	旭川実業高校3年	MS, MD	NJ/MS, MD
関口　直拳	セキグチ　ナオタカ	関東第一高校3年	MS	NJ/MS
井上　拓斗	イノウエ　タクト	埼玉栄高校2年	MS, MD	NJ/MS, MD
西本　拳太	ニシモト　ケンタ	埼玉栄高校2年	MS	NJ/MS
嘉村　健士	カムラ　タケシ	早稲田大学4年	MD, XD	NB/MD, XD
佐伯　祐行	サエキ　ヒロユキ	日本ユニシス	MD	NB/MD
垰畑　亮太	タオハタ　リョウタ	日本ユニシス	MD, XD	NB/MD, XD
星野　翔平	ホシノ　ショウヘイ	日本体育大学2年	MD, XD	NB/MD, XD
小林　晃	コバヤシ　アキラ	日本体育大学2年	MD, XD	NB/MD, XD
千葉　常	チバ　ジョウ	埼玉栄高校3年	MD, XD	NJ/MD, XD
河合　勇飛	カワイ　ユウヒ	東大阪大学柏原高校3年	MD, XD	NJ/MD, XD
松居　圭一郎	マツイ　ケイイチロウ	富岡高校2年	MD, XD	NJ/MD, XD
保木　卓朗	ホキ　タクロウ	富岡高校1年	MD	NJ/MD
中里　裕貴	ナカザト　ユウキ	埼玉栄高校1年	MD	NJ/MD
佐々木　崇	ササキ　タカシ	関東第一高校3年	MD, XD	NJ/MD, XD
金子　祐樹	カネコ　ユウキ	埼玉栄高校2年	MD, XD	NJ/MD, XD
竹村　純	タケムラ　ジュン	JR北海道	MS	NR/MS
佐伯　浩一	サエキ　コウイチ	NTT東日本	MS	NR/MS
藤田　真生	フジタ　マオ	東京都協会	MS	NR/MS
黒瀬　尊敏	クロセ　タカトシ	トナミ運輸	MD, XD	SP/MD, NR/XD
大嶋　一彰	オオシマ　カズアキ	日立情報通信エンジニアリング	MD	NR/MD
三橋　智希	ミツハシ　トモキ	日立情報通信エンジニアリング	MD	NR/MD
竹川　慶二	タケガワ　ケイジ	タダノ	MD	NR/MD
天野　真一	アマノ　シンイチ	タダノ	MD	NR/MD
大滝　祐紀	オオタキ　ユウキ	東海興業	XD	NR/XD
川口　佳介	カワグチ　ケイスケ	トリッキーパンダース	XD	NR/XD
車　淳史	クルマ　アツシ	金沢学院クラブ	XD	NR/XD
江崎　淳	エザキ　スナオ	西日本シティ銀行	XD	NR/XD
諸多　大輔	モロタ　ダイスケ	東北マークス	XD	NR/XD

氏　名	ヨミガナ	所属	出場種目	種目別出場基準
三谷　美菜津	ミタニ　ミナツ	NTT東日本	WS	NT/WS
関谷　真由	セキヤ　マユ	三洋電機	WS	NB/WS
岡　ひとみ	オカ　ヒトミ	ルネサスSKY	WS, WD	NB/WS, SP/WD
打田　しづか	ウチダ　シヅカ	日本ユニシス	WS, WD	NB/WS, WD
野尻野　匡世	ノジリノ　マサヨ	日本ユニシス	WS, WD	NB/WS, WD
樽野　恵	タルノ　メグミ	NTT東日本	WS, WD	NB/WS, WD
髙橋　沙也加	タカハシ　サヤカ	三洋電機	WS	NB/WS
奥原　希望	オクハラ　ノゾミ	大宮東高校2年	WS	NB/WS
福万　尚子	フクマン　ナオコ	三洋電機	WS, WD	NB/WS, WD
與猶　くるみ	ヨナオ　クルミ	三洋電機	WS, WD	NB/WS, WD
田村　千秋	タムラ　チアキ	ヨネックス	WS, WD	NB/WS, WD
福島　由紀	フクシマ　ユキ	青森山田高校3年	WS, WD	NJ/WS, WD
木村　百花	キムラ　モモカ	富岡高校3年	WS, WD	NJ/WS, WD
鳥居　彩乃	トリイ　アヤノ	聖ウルスラ学院英智高校2年	WS, WD	NJ/WS, WD
小見山　彩	コミヤマ　サヤカ	富山国際大付属高校2年	WS, WD	NJ/WS, WD
篠谷　菜留	シノヤ　ナル	青森山田高校3年	WS, WD	NJ/WS, WD
三木　佑里子	ミキ　ユリコ	三洋電機	WD, XD	NB/WD, XD
米元　小春	ヨネモト　コハル	三洋電機	WD, XD	NB/WD, XD
田中　志穂	タナカ　シホ	法政大学1年	WD, XD	NB/WD, XD
市丸　美里	イチマル　ミリ	法政大学1年	WD, XD	NB/WD, XD
樋口　帆渚実	ヒグチ　ホナミ	樟蔭東高校3年	WD, XD	NJ/WD, XD
宮原　唯	ミヤハラ　ユイ	樟蔭東高校3年	WD, XD	NJ/WD, XD
山口　ソヨカ	ヤマグチ　ソヨカ	富山国際大付属高校2年	WD, XD	NJ/WD, XD
早川　紗保里	ハヤカワ　サホリ	富岡高校2年	WD, XD	NJ/WD, XD
大堀　優	オオホリ　ユウ	富岡高校2年	WD, XD	NJ/WD, XD
峰　歩美	ミネ　アユミ	ルネサスSKY	WS	SP/WS
作山　智美	サクヤマ　トモミ	ヨネックス	WS, WD	SP/WS, WD
柏原　未久	カシワバラ　ミク	ヨネックス	WS	SP/WS
亀谷　望	カメタニ　ノゾミ	ヨネックス	WS	SP/WS
幡谷　好美	ハタヤ　ヨシミ	ルネサスSKY	WS	NR/WS
伊東　可奈	イトウ　カナ	ルネサスSKY	WS, WD	NR/WS, WD
楠瀬　由佳	クスノセ　ユカ	北都銀行	WS	NR/WS
横山　めぐみ	ヨコヤマ　メグミ	ルネサスSKY	WD, XD	SP/WD, NR/XD
原　麻衣子	ハラ　マイコ	ルネサスSKY	WD	SP/WD
城口　優里花	シログチ　ユリカ	ルネサスSKY	WD	SP/WD
阿萬　絵里香	アマン　エリカ	ヨネックス	WD	SP/WD
脇田　侑	ワキタ　ユウ	岐阜トリッキーパンダース	WD	NR/WD
江藤　理恵	エトウ　リエ	岐阜トリッキーパンダース	WD	NR/WD
金森　裕子	カナモリ　ユウコ	日本ユニシス	WD	NR/WD
浅原　さゆり	アサハラ　サユリ	日本ユニシス	WD	NR/WD
今別府　靖代	イマベップ　ヤスヨ	ヨネックス	WD	NR/WD
小池　温子	コイケ　アツコ	広島ガス	WD	NR/WD
今井　杏莉	イマイ　アンリ	七十七銀行	WD, XD	NR/WD, XD
大森　舞	オオモリ　マイ	七十七銀行	WD	NR/WD
桜井　みどり	サクライ　ミドリ	早稲田大学4年	WD	NR/WD
西山　夕美子	ニシヤマ　ユミコ	早稲田大学4年	WD	NR/WD
久後　あすみ	クゴ　アスミ	ルネサスSKY	WD	NR/WD
服部　麻衣	ハットリ　マイ	七十七銀行	XD	NR/XD
小椋　しのぶ	オグラ　シノブ	三菱電機	XD	NR/XD
中村　紋子	ナカムラ　アヤコ	三菱電機	XD	NR/XD
高原　里衣	タカハラ　リエ	西日本シティ銀行	XD	NR/XD

※日本代表選手の所属先は2010年4月1日現在のものです。
※[日本代表選手]の選考基準について
1.ナショナルチーム選手
2.ナショナルバックアップチーム選手
3.2011年2月11日付け日本ランキング16位までの選手
4.ジュニア強化部推薦選手
5.協賛企業・推薦選手

6.略号解説
NT: ナショナルチーム
NB: ナショナルBチーム
NR: 日本ランキング
NJ: ジュニア強化部
SP: 協賛企業・推薦

ENGLAND

Surname/FirstName	カタカナ表記	出場種目
ANINDITA Lusia	ルシア・アニンディタ	WS

MONGOLIA

Surname/FirstName	カタカナ表記	出場種目
OLONBAYAR Enkhbat	インフバット・オロンバヤル	MS, MD
MUNKHBAATAR Zolzaya	ゾルザヤ・ムンフバータル	MS, MD
TERBISH Uuganbayar	ウーガンバヤル・テルビッシュ	MS, MD
PUREVSUREN Sainbuyan	サインブヤン・プレフスレン	MS, MD
BAYASGALAN Odonbaatar	オドンバータル・バヤスガラン	MS
MUNKHBAYAR Dulamsuren	ドゥラムスレン・ムンフバヤル	WS, WD
OTGONBAYAR Nominedene	ノミネルデネ・オトゴンバヤル	WS, WD

CHINESE TAIPEI

Surname/FirstName	カタカナ表記	漢字表記	出場種目
CHOU Tien Chen	チョウ・ティエンチェン	周天成	MS
LU Chi Yuan	ル・チーユアン	盧紀遠	MS, MD
LIN Chia Hsuan	リン・チャーシュアン	林家翾	MS, MD
CHU Han Chou	チュー・ハンチョウ	朱漢晝	MS, MD
HSIEH Feng Tse	シェー・フェンツェ	謝豐澤	MS, MD
YANG Chih Hsun	ヤン・チーシュン	楊智勛	MS, MD
YANG Chih Chieh	ヤン・チーチェー	楊智傑	MS, MD
TSENG Ching Chung	ツェン・チンチュン	曾敬中	MD
TSAI Chia Hsin	ツァイ・チャーシン	蔡佳欣	MD
HUANG Po Jui	ファン・ポージュィ	黃柏睿	MD
LIN Chia Yu	リン・チャーユ	林家佑	MD
HSU Ya Ching	シュー・ヤーチン	許雅晴	WS, WD
TANG Wan Yi	タン・ワンイ	唐琬貽	WS, WD

RUSSIA

Surname/FirstName	カタカナ表記	出場種目
Pukhov Stanislav	スタニスラフ・プクホフ	MS

UNITED STATES

Surname/FirstName	カタカナ表記	出場種目
AMPHIE Agusriadi Wijaya	アグスリアディ・ウィジャヤ・アンフィ	MS

スポーツ分野で、活躍したい

健康・スポーツ関連資格の取得で、あなたの夢をバックアップ!!

鍼灸学部［鍼灸学科］　保健医療学部［柔道整復学科］

アスリートに信頼される、スポーツトレーナーへの一歩！

今や医療現場のみならず、スポーツ界においても「鍼灸師」「柔道整復師」の活躍の場は広がっています。怪我の治療はもちろん、日々のメンテナンスまでを担う医療資格を持つスポーツトレーナーは、選手達にとって何よりも信頼できる存在です。
そんな「身体のプロフェッショナル」を育てる明治国際医療大学で、あなたも夢をつかんでみませんか。

はり師・きゅう師 国家資格（受験資格）

柔道整復師 国家資格（受験資格）

＋

取得できる健康・スポーツ関連資格

- **アスレチックトレーナー［JATAC］**
- **スポーツプログラマー**（受験資格）
- **ジュニアスポーツ指導員**（受験資格）
- **健康運動実践指導者**（受験資格）

東海道沿線からの通学時間が短縮

明治国際医療大学に「直行バス」運行

JR桂川駅 ← 阪急桂駅 / 京都エミナース ← 約50分 → 明治国際医療大学

キャンパス内にある附属病院



東西医学の「補完と融合」を実践する画期的な医療機関で、医師との連携、医療人としての意識を学ぶ最良の環境が整っています。

OPEN CAMPUS 2011

6/26・SUN	7/24・SUN	8/6・SAT
8/7・SUN	8/21・SUN	9/25・SUN

看護学部［看護学科］
本学ならではの東洋医学のエッセンスを取り入れた新しい看護学教育を展開します。

見つめる先は、人のすべて

明治国際医療大学

旧称 明治鍼灸大学　www.meiji-u.ac.jp

鍼灸学部［鍼灸学科］
保健医療学部［柔道整復学科］
看護学部［看護学科］
大学院［鍼灸学研究科］

携帯サイトはこちら!

〒629-0392 京都府南丹市日吉町　TEL 0771-72-1181　交通／JR京都駅より山陰本線「鍼灸大学前」駅下車すぐ

OFFICIALS
オフィシャル

大会役員 TOURNAMENT OFFICERS

大会会長	綿貫民輔			
大会名誉顧問	橋下　徹			
	生野照子			
	町田勝彦			
大会副会長	三宅祐司			
	籾井勝人			
大会顧問	森　喜朗	関谷勝嗣	森田　一	
	清水規矩雄	林　芳正	市川一朗	八木橋伸夫
	佐藤　保	塩川　甫	村上忠治	植田博宣
	権田正一	丸山嘉久	橋本角市	原二三雄
	吹田修一	毛利清志	平田登志郎	小宮淳宏
	福岡幸一	牧野　武	内多小五郎	濱中　誠
	今北基夫	伊豆　晃	村山幸雄	本郷節生
	渡辺成雄	菊地利明	岡本武利	日高　壮
	山根　怜	佐藤芳朗	野村嘉明	里見光徳
	木村　寛	遠井稔男	竹林克彦	油井秀男
	青木昭二	杉田　博	金森義弘	吉田邦男
	中村　弘	高澤　基	日野　昇	磯井貞夫
	手塚克彦	金森　正	保坂和也	宮川忠和
	田中康二	瀬川欽也	中嶋光司	上野　忠
	山田一六	岡﨑　彬	神谷哲郎	澤　長壽
	末岡照章	西野昌明	石田真敏	加藤博司
	田中田鶴子	野口良治	深山英樹	西森潮三
	成相安信	相澤　潔	瀧山一甫	冨田　浩
	本田正寛	富田善明	里脇清隆	金城芳雄
	近藤　稔	戸田清一	池田　徹	川島一郎
	岡村英男	星野忠男	菅原周一	藤田庸右
	板垣隆房	栗原　進	松浦稔明	堀江　繁
	斉藤永吉	秋草直之	関場　武	小野　理
	野村明雄	村井広美	谷本和廣	西谷一郎
	品川則之	森　義和	宮林章三	中原住雄
大会参与	藤本　滋	原　紀征	藤原和文	藤原　航
	鈴木勝之	加藤寛治		
	秋岡澄子	松王清志	島津八郎	石橋三彦
	四方光市	宮脇正晴	池田芳麻	片岡輝明
大会委員長	関根義雄			
大会副委員長	銭谷欽治			
大会委員	阿部秀夫	今井茂満	河崎正紀	上原信彦
	佐竹養一	高橋英夫	千葉健夫	野村安忠
	村元英美	山田順一郎	福田　武	浅岡　武
	能登則男	木戸純一	河野幸男	西村健二
	神戸　照	中山紀子		
	清水義雄	池田紗千子	福森勝治	佐藤彰彦
	立花良明	川上隆庸	宇治　収	養父一太
	仲尾信一	月原　朗	武田文則	大住陽一
	金山在勇	廣瀬園子	喜多　努	西上正一
	谷田尚嗣	大西正彦	前野純一	森元恵子
	東條安彦	田村淳子	百野郁子	岡森　祐
	土居　毅	当山哲司	増田　聡	松村一三
	田上敬子	藤岡毅至	村上徹嗣	生田健一
	山本浩之	有田圭一	木村　寛	小田耀子
	倉橋　健	溝口光義	中留玉恵	鈴木大和
	水谷彩乃			

大会運営委員 TOURNAMENT COMMITTIEES

運営委員長	関根義雄			
運営副委員長	銭谷欽治			
委員	今井茂満			
	山田順一郎	阿部秀夫	木戸純一	中山紀子
	村井広美	品川則之	清水義雄	池田紗千子
レフェリー				
ディプティレフェリー	小島博幸	三王知治		
プレイヤーズセクレタリー	西　祐子	渡会菜々	阿由葉純代	高野直子
	有村英秦			

実行委員会競技役員 EVENT CONTROL in OSAKA

総括	銭谷欽治			
副総括	佐藤彰彦	福森勝治	廣瀬園子	大住陽一
総務担当	月原　朗	養父一太	西上正一	仲尾信一
	岡森　祐	武田文則	当山哲司	藤岡毅至
	山本浩之	溝口光義	有田圭一	木村　寛
	土居　毅	谷田尚嗣	東條安彦	末藤かほる
	小谷恵美子	大森滋人	竹田由美子	梶谷恵美代
	上岡百合子	枡本みなみ	植田玲子	林美津代
	永谷美穂	坂江和枝	川内田和子	酒井素子
	手島　幸	米谷啓子	中井真由美	赤井睦代
	市川香織	北原良次	須田美智子	
救護担当	川上慶子			
	明治国際医療大学スタッフ			
財務担当（兼務）	福森勝治	廣瀬園子	月原　朗	
広報担当	浅見　勇	三角清一	宇治　収	喜多　努
	大西正彦			
競技担当	立花良明	森元恵子	前野純一	増田　聡
	小田耀子	生田健一	中村智世	
放送担当	田上敬子	木村幸子	小林久美子	仲宗根真希子
審判担当	川上隆庸			
国際審判	齊藤篤司	上野　誠		
審判員	金山在勇	百野郁子	田村淳子	松村一三
	中留玉恵	北野公男	山本　剛	福島邦夫
	田上典生	千葉政勝	伊藤義次	高田真一郎
	糸川公久	岩下真志郎	須田祥充	梅咲晴代
	大西富美昭	村上徹嗣	吉村敏雄	木下貴嗣
	山田敏勝	木村好徳	磯部光三	上田富康
	林　栄子	松下禎子	小倉美枝子	藤原恵一
	渡辺明美	増山康子	松井宏子	田中晴子
	栢野智子	市原裕子	真鍋稔乃	塩田和美
	米倉恵里	石川亮子	岡田美津子	山下智子
	鹿島昌代	生賀智恵子	磯山浩美	北野加代子
	徳富信明	向川慎治	原田由美子	森本　毅
	孝石　健	三坂裕士	大見康裕	孝石麻紀子
	桐原早苗	有薗重光	大西みどり	永安仁詩
	中尾美穂	今村勇史	横井栄子	大植康裕
	池端康平	永井　泉	松村和樹	喜多広幸
	福田美恵	中村智恵	松岡正樹	板倉恵子
	小澤夏子	高田有佑	堤　一彦	山田浩太郎
	河村隆之	池上徹	竹田朋子	徳本峰子
	北原克彦	島田健一	楢崎　博	倉橋　健
	鈴木大和	水谷彩乃	小林幹男	

大会プログラム/ポスター
企画・デザイン　（有）ビーファクトリー

楽しかった。の思い出づくりのお手伝い



1F　ブッフェレストラン「ザ・パークビュー」


伊勢海老かぶと汁

鯛・鮪・イベリコ豚＆春野菜が満載!

ザ・パークビュー バイキング


チョコレートファウンテン

2011年 4/1（金）～4/30（土）

〈メニュー例〉
鯛の海藻蒸し（タイムサービス）、鮪の手こね寿司（タイムサービス）、伊勢海老かぶと汁、シーフードサラダ イタリアン風、
山菜・筍・うど・ルッコラの春満喫サラダ、名物 ジャンボプリン（タイムサービス）、チョコレートファウンテンなど


伊勢海老風味パスタ


鯛の海藻蒸し


シーフードサラダ イタリアン風


イベリコ豚と春キャベツのコンソメしゃぶしゃぶ

土・日・祝日 ディナーバイキング 限定メニュー



ランチバイキング　約70品食べ放題

【時間】11:30A.M.～2:30P.M.（内90分）※混雑が予想される日は、2部制にてご案内いたします。

ファミリーディナーバイキング　約80品食べ放題

土・日・祝日【時間】5:00P.M.～7:00P.M.／7:10P.M.～9:10P.M.

料金1名さま		ランチ	ディナー［土・日・祝日］
おとな	通　常	¥1,900	¥3,300
	ケータイメール会員	¥1,800	¥3,000
シニア	通　常	¥1,700	¥2,600
	ケータイメール会員	¥1,600	¥2,500
小学生	通　常	¥1,000	¥1,650
	ケータイメール会員	¥900	¥1,500
幼　児	通　常	¥500	¥800
	ケータイメール会員	¥400	¥750

※シニア：65歳以上　※幼児：4歳～小学生未満
※ケータイメール会員につきましては右記をご覧ください。

5/3（祝）～5/5（祝）
「ザ・パークビュー」
ゴールデンウイーク ディナーバイキング

おすすめ料理のバイキングの他、デザートメニューがいつもの2倍!
デコレーションケーキも登場します!
【時間】1部 5:00P.M.～7:00P.M.／2部 7:10P.M.～9:10P.M.



料金 1名さま	通常	ケータイメール会員
おとな	¥3,500	¥3,300
シニア	¥3,000	¥2,800
小学生	¥1,650	¥1,500
幼　児	¥800	¥750

土・日・祝日ディナータイムは
「ビンゴゲーム大会」!



お食事券やおもちゃが当たります。小学生・幼児（4歳以上）のお子さまにはビンゴカードを1枚プレゼント!

オトクがいっぱい!ケータイメール会員
会員募集中!

パインズファン PINES FAN
ケータイメール会員

ご登録の方限定のお得なニュースなどがケータイメールで届きます。QRコードを読み取り、空メールを送信してください。
※ケータイメール会員：ケータイメールで届くニュース配信をご登録いただいた方（当日入会可）。特典をご利用の際は、登録画面をスタッフにお見せください。



ロイヤル パインズ ホテル

大阪から京都から、ひとつの路線で。京阪電車守口市駅直結

http://www.royalpines.co.jp/moriguchi/　守口ロイヤルパインズホテル　検索

〒570-0038 大阪府守口市河原町10-5

お問合せ・ご予約は、レストラン予約係まで。（9:00A.M.～7:00P.M.）
TEL.(06)6994-1185



守口市民体育館からすぐ

サインをください！

Please give your autograph!

2011 OSAKA INTERNATIONAL CHALLENGE BADMINTON CHAMPIONSHIPS



人と地球の未来をつないでいく、
ルネサス エレクトロニクスの半導体。

ルネサス エレクトロニクスは、世界No.1*のシェアを誇るマイコンのリーディングカンパニーとして、青く美しい地球を未来に引き継ぎ、人々がいつまでも幸せに暮らせる社会の実現に貢献します。いかに環境への負荷を軽減していくか、いかに世界中の人々が安心して快適に暮らせるか、各地域のニーズに耳を傾け、半導体を通して迅速に応えていきます。そのために、「マイコンを中心とした、システムLSIとパワー＆アナログ半導体の製品群」を強化し、「低消費電力化、小型化、低コスト化、セキュリティ機能などの技術力」を高め、半導体によるシステムソリューションをグローバルに提供していきます。地球と共生して豊かに暮らせる社会へ。ルネサス エレクトロニクスの半導体が支えていきます。

* Source: Gartner, "Semiconductor Applications Worldwide Annual Market Share: Database" 25 March 2010
2009年ベンダー売上金額

http://japan.renesas.com/

ルネサス エレクトロニクス株式会社
本社事務所：〒100-0004 東京都千代田区大手町二丁目6番2号（日本ビル）

RENESAS

SANYO



想いをすべての一打に込めて。

対戦相手を翻弄するテクニックを。全力で走り続けるスタミナを。
ピンチに崩れることのないメンタルを。
鍛え、磨き抜いていく。期待がどれだけ大きくても、それを越えていく一打を放つために。

Tough & Smile
SANYO BADMINTON TEAM

三洋電機株式会社
〒570-8677 大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号
TEL 06-6991-1181(代)
jp.sanyo.com/social/badminton/